

秋田県埋蔵文化財センター一年報

27

平成20年度

2009・3

秋田県埋蔵文化財センター

序

秋田県埋蔵文化財センターは、本県埋蔵文化財の調査・研究、活用・普及を推進しております。設立以来27年を経過し、昨年度までの3調査課体制を改編して、大仙市に総務班、調査班、資料管理活用班を、男鹿市に中央調査班を置くことといたしました。

今年度は、日本海沿岸東北自動車道建設事業、一般国道7号鷹巣大館道路建設事業、一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業などに伴い8遺跡の発掘調査を実施いたしました。特に、大館市堂ノ沢遺跡の縄文時代集落跡や由利本荘市智者鶴遺跡の縄文時代後期の配石遺構、にかほ市前田表Ⅱ遺跡出土の墨書土器や秋田市平右衛門田尻遺跡の中世井戸跡などが注目されました。

また、埋蔵文化財は県民共有の文化遺産であり、後世に受け継いでいくべきものとの考えに基づき、全県各地で遺跡見学会や報告会などを行いました。さらに、年2回の企画展や「ふるさと考古学セミナー」、「古代体験広場」など多くの活用・普及事業を実施するとともに、学校や社会教育関係機関とも連携し、教育・普及活動を積極的に推進しました。

本年報は、平成20年度に当センターが発掘調査を行った遺跡の概要と秋田県甘肅省文化交流事業及び埋蔵文化財の活用・普及事業などの諸活動をまとめたものであります。多くの方々に御利用いただくとともに、当センターの事業について一層の御理解と御支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成21年3月

秋田県埋蔵文化財センター

所長 佐藤 了

目 次

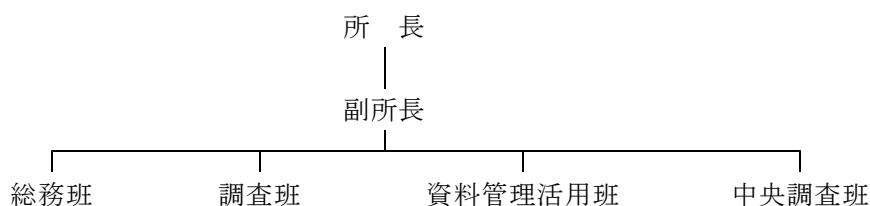
序	
目次	
I 沿革	1
II 組織・施設	1
III 秋田県埋蔵文化財センター平成20年度の歩み	2
IV 事業の概要	
1 発掘調査	3
2 確認調査	3
3 埋蔵文化財発掘調査	
(1) 平成20年度秋田県内発掘調査遺跡	4
(2) 発掘調査概要	
下野Ⅱ遺跡	6
堂ノ沢遺跡	8
狼穴Ⅱ遺跡	10
前田表Ⅱ遺跡	12
沖田Ⅱ遺跡	14
平右衛門田尻遺跡	16
智者鶴遺跡	18
4 刊行物一覧	20
5 平成20年度秋田県甘肅省文化交流事業	
(1) 交流事業の概要	23
(2) 秋田県交流員の活動	
①活動の記録	25
②交流員の感想	26
(3) 甘肅省交流員の活動	
①活動の記録	28
②交流員の感想	28
6 活用・普及事業	
(1) 平成20年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会	30
(2) 遺跡見学会	32
(3) 学校（教育）サポート	
①セカンドスクール	32
②ボランティア・職場体験（インターンシップ）	33
③発掘調査模擬体験	33
(4) 主催事業	
①企画展	36
②古代体験広場2008	39
③平成20年度縄文発見・ワクワク体験	40
④ふるさと考古学セミナー	40
⑤出張展示	42
(5) 共催・機関連携等による普及事業	
①フレッシュあきたゼミ	42
②縄文土器に生ける山野草展	42
③県庁出前講座	43
(6) その他	
①古代体験キット・ビデオの貸し出し実績	43
②センター施設の開放と展示	44
(7) 講演・研究論文等	44
7 運営協議会	46
V 平成20年度研修事業	49
VI 職員名簿	50

I 沿革

昭和55年2月	秋田県埋蔵文化財センター設立計画公表
昭和55年10月26日	建設工事開始
昭和56年8月31日	センター、第1収蔵庫完成
昭和56年10月1日	設置条例施行、職員発令、業務開始
昭和56年11月2日	落成記念式典挙行
平成5年1月	第2収蔵庫完成
平成10年4月2日	鷹巣町に秋田北分室開設
平成11年12月20日	秋田市に秋田整理室開設
平成12年4月4日	秋田整理室が秋田中央分室となる
平成13年4月2日	機構改革により南調査課、北調査課、中央調査課の3課体制となる
平成13年6月20日	秋田県・甘肅省文化交流事業により交流員の相互交流開始
平成14年3月2日	秋田県埋蔵文化財センター設立20周年記念式典挙行
平成15年10月17日	秋田県・甘肅省文化交流事業磨嘴子遺跡合同発掘調査開始
平成15年10月30日	センター屋根、外壁、内部大規模改修工事
平成17年4月1日	男鹿市に中央調査課男鹿整理収蔵室開設
平成20年3月31日	北調査課、中央調査課閉課

II 組織・施設

組織



施設の概要

本所（総務班・調査班・資料管理活用班）

所在地	〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20		
TEL	0187-69-3331	FAX	0187-69-3330
敷地面積			6,962.000㎡
本所建物	鉄筋コンクリート2階建		1,527.304㎡
第1収蔵庫	鉄骨造平屋建		360.000㎡
第2収蔵庫	鉄骨造平屋建		297.680㎡
電気・ポンプ室	平屋建		59.780㎡

中央調査班

所在地	〒010-0502 秋田県男鹿市船川港比喩字餅ヶ沢200		
TEL	0185-23-2296	FAX	0185-24-6060
敷地面積			55,521.000㎡
本所建物	鉄筋コンクリート3階建		7,524.360㎡

Ⅲ 秋田県埋蔵文化財センター平成20年度の歩み

(平成20年)

- 4月1日 秋田県埋蔵文化財センター4班体制スタート
平成20年度秋田県埋蔵文化財センター新任式
 - 5月13日 明德館高校科目履修講座開始(20年度13回実施)
 - 20日 秋田県・中国甘肅省文化交流事業秋田県交流員 文化財保護室高橋主幹甘肅省へ出発
 - 21日 堂ノ沢遺跡発掘調査開始(～8/5)
 - 24日 森吉山ダム関係遺跡仮収蔵庫建築着手(6月30日完成)
 - 30日 第1回センター企画展「久保田城下の武家のくらし」(～9/30)
 - 6月9日 沖田Ⅱ遺跡発掘調査開始(～9/10)
 - 12日 平右衛門田尻遺跡発掘調査開始(～10/23)
前田表Ⅱ遺跡発掘調査開始(～10/10)
 - 13日 下野Ⅱ遺跡発掘調査開始(～9/26)
狼穴Ⅱ遺跡発掘調査開始(～11/21)
 - 17日 AED(自動体外式除細動器)設置
 - 28日 堂ノ沢遺跡発掘調査遺跡見学会
 - 29日 第1回企画展「久保田城下の武家のくらし」講演会
 - 7月3日 第1回埋蔵文化財センター運営協議会開催(会場:中央調査班)
 - 13日 第1回ふるさと考古学セミナー(第2回8月31日・第3回9月28日)
 - 29日 縄文発見・ワクワク体験(～31日)(会場:埋蔵文化財センター外)
 - 8月16日 古代体験広場2008(第2回9月7日・第3回10月5日)
 - 22日 埋蔵文化財センター職員等発掘調査技術研修会(会場:平右衛門田尻遺跡発掘調査現場)
 - 27日 秋田県・中国甘肅省文化交流事業甘肅省側交流員来秋
交流員 党 栄華(受入先:秋田県埋蔵文化財センター) 王 玲秀(受入先:秋田県立博物館)
 - 9月1日 智者鶴遺跡発掘調査開始(～10/22)
 - 6日 下野Ⅱ遺跡発掘調査遺跡見学会
 - 10月6日 前谷地遺跡確認調査開始(～17日)
 - 18日 狼穴Ⅱ遺跡発掘調査遺跡見学会
智者鶴遺跡発掘調査遺跡見学会
 - 19日 平右衛門田尻遺跡発掘調査遺跡見学会
 - 20日 湯瀬館跡遺跡確認調査開始(～24日)
 - 27日 上谷地Ⅰ・上谷地Ⅱ遺跡確認調査開始(～11/7)
 - 30日 全国埋文協第21回北海道・東北ブロック会議(～31日)(会場:秋田県埋蔵文化財センター外)
 - 11月4日 大沢倉下・折戸遺跡確認調査開始(～14日)
 - 8日 第2回センター企画展「秋田の狩猟文化」(～2/27)
 - 11日 甘肅省交流員関東・関西方面博物館等研修視察(～16日)
 - 28日 第1回れんげいゼミ(第2回12月5日・第3回12月12日・第4回12月19日)
 - 12月13日 企画展「秋田の狩猟文化」セミナー
 - 19日 秋田県・中国甘肅省文化交流事業秋田県交流員 文化財保護室高橋主幹甘肅省から帰秋
- (平成21年)
- 1月10日 企画展イベント「弓矢をつくろう」
 - 2月1日 講演会「秋田の狩猟文化を考える」(会場:仙北ふれあい文化センター)
 - 21日 講演会「秋田の狩猟文化を考えるーPart2」(会場:角館樺細工伝承館)
 - 24日 秋田県・中国甘肅省文化交流事業甘肅省交流員 党 栄華氏 離秋
 - 26日 第2回埋蔵文化財センター運営協議会開催
 - 3月7日 平成20年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会(～8日) 会場:男鹿市民文化会館

IV 事業の概要

1 発掘調査

平成20年度に秋田県埋蔵文化財センターが行った各事業別の発掘調査は以下の通りである。

国土交通省関係

- 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業：下野Ⅱ遺跡・堂ノ沢遺跡
- 一般国道7号大館西道路建設事業：狼穴Ⅱ遺跡
- 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業：前田表Ⅱ遺跡
- 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業：沖田Ⅱ遺跡

県関係

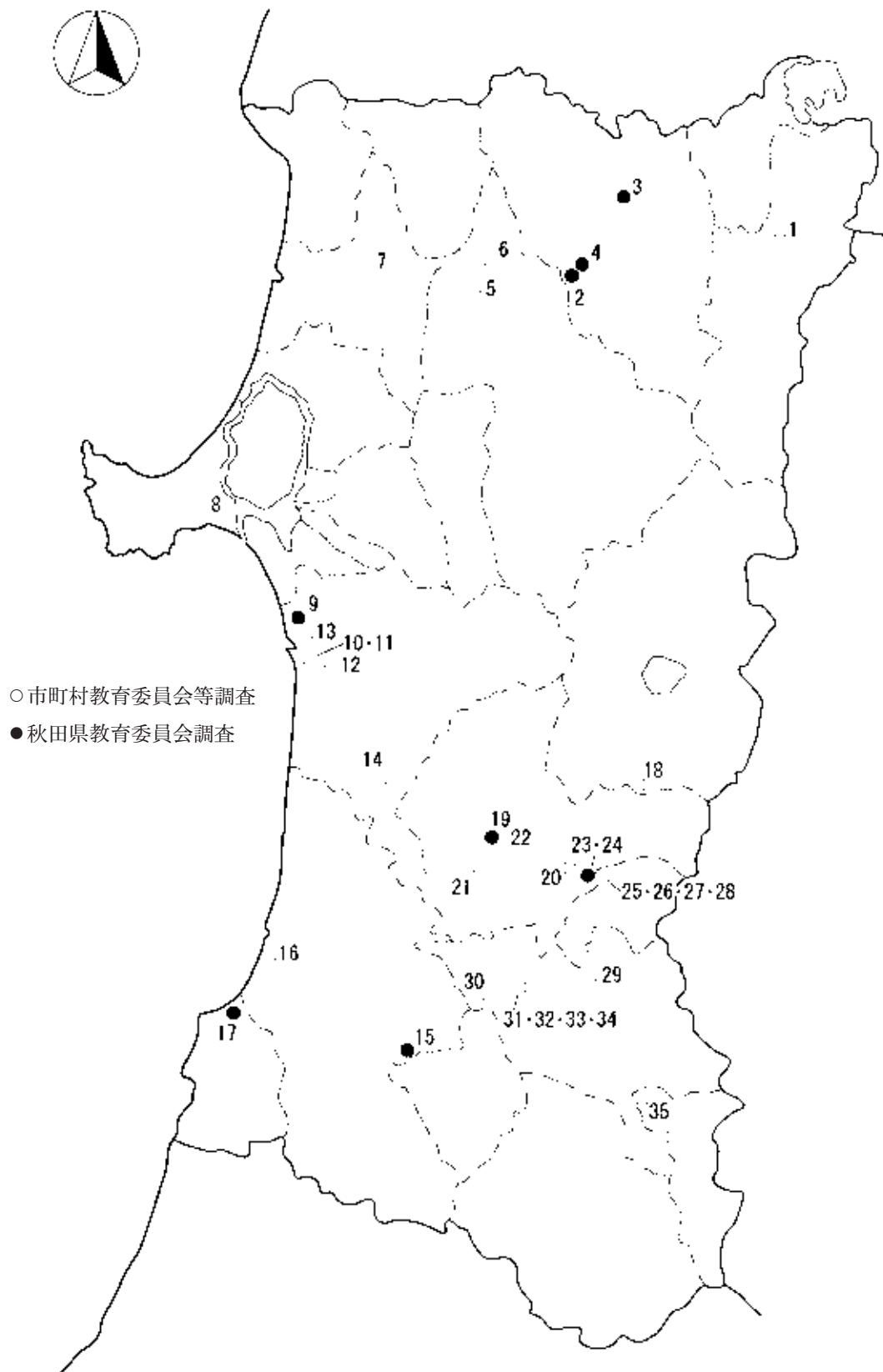
- 広域基幹河川改修事業（鉄道橋・道路橋緊急対策事業）新城川：平右衛門田尻遺跡
- 地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線：智者鶴遺跡

2 確認調査

	事業名	遺跡名・所在地	調査期間	調査担当者
1	一般国道7号鷹巣大館道路建設事業	大沢倉下遺跡 (北秋田市)	11月4日～11月14日	加藤朋夏 佐々木公法
2	一般国道7号鷹巣大館道路建設事業	折戸遺跡 (北秋田市)	11月4日～11月14日	加藤朋夏 佐々木公法
3	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	上谷地Ⅰ遺跡 (にかほ市)	10月27日～11月7日	山村剛・袴田道郎
4	一般国道7号象潟仁賀保道路建設事業	上谷地Ⅱ遺跡 (にかほ市)	10月27日～11月7日	山村剛・袴田道郎
5	地方特定道路整備工事一般 県道富根能代線	前谷地遺跡 (能代市)	10月6日～10月17日	山村剛・袴田道郎
6	国道282号交通安全設備等 整備事業	湯瀬館跡 (鹿角市)	10月20日～10月24日	宇田川浩一 菅野美香子
7	県営ほ場整備事業（本堂城 回地区）	払田柵跡 (美郷町)	11月4日～12月25日	藤田賢哉・高橋学

3 埋蔵文化財発掘調査

(1) 平成20年度秋田県内発掘調査遺跡



平成20年度県内発掘調査遺跡の位置

(2) 平成20年度県内発掘調査遺跡一覧および概要

No.	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査主体者	事業名等	主な時代：性格
1	大湯環状列石	鹿角市十和田大湯野中堂・万座他	7/14～11/13	580㎡	鹿角市教育委員会	学術調査	縄文：配石
2	堂ノ沢	大館市大子内字堂ノ沢	5/21～8/5	850㎡	秋田県教育委員会	一般国道7号鷹巣大館道路建設事業	縄文：集落跡・墓域
3	狼穴Ⅱ	大館市釈迦内字狼穴	6/13～11/21	3,800㎡	秋田県教育委員会	一般国道7号大館西道路建設事業	縄文・平安：集落跡
4	下野Ⅱ	大館市本宮字下モ野	6/13～9/26	2,250㎡	秋田県教育委員会	一般国道7号鷹巣大館道路建設事業	縄文・中世：集落跡
5	伊勢堂岱	北秋田市脇神字伊勢堂岱	6/1～11/28	400㎡	北秋田市教育委員会	学術調査	縄文：祭祀跡
6	胡桃館	北秋田市綴子字胡桃館	11/18～11/20	100㎡	北秋田市教育委員会	学術調査	平安：埋没家屋
7	泥ノ木	能代市二ツ井町梅内字泥ノ木	4/10～4/17	72㎡	能代市教育委員会	携帯基地局建設	縄文：散布地
8	脇本城跡	男鹿市脇本脇本字七沢他	5/28～10/7	185.6㎡	男鹿市教育委員会	学術調査	中世：城館跡
9	平右衛門田尻	秋田市飯島字平右衛門田尻	6/12～10/23	7,700㎡	秋田県教育委員会	広域基幹河川改修事業	平安・中世：集落
10	秋田城跡	秋田市寺内焼山	4/16～9/4	500㎡	秋田市教育委員会	学術調査	奈良・平安：城柵官衙
11	秋田城跡	秋田市寺内大小路	8/27～11/14	500㎡	秋田市教育委員会	学術調査	奈良・平安：城柵官衙
12	久保田城跡(黒門跡)	秋田市千秋久保田町	10/14～12/11	160㎡	秋田市教育委員会	学術調査	近世：城館跡
13	湊城跡	秋田市土崎港中央六丁目	9/1～10/31	2,567㎡	秋田市教育委員会	駅前広場整備工事	中世・近世：城館跡
14	下野	秋田市雄和相川字下野	5/20～8/31	6,300㎡	秋田市教育委員会	経営体育成基盤整備事業	縄文：集落跡・墓域
15	智者鶴	由利本荘市東由利黒淵字智者鶴・境田	9/1～10/22	280㎡	秋田県教育委員会	県道拡幅事業	縄文：集落跡・墓域
16	船岡大沢	由利本荘市船岡字大沢	7/1～9/12	1,256㎡	由利本荘市教育委員会	水道工事	縄文・平安：集落跡・生産遺跡
17	前田表Ⅱ	にかほ市両前寺字前田表	6/12～10/10	4,200㎡	秋田県教育委員会	一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業	平安：集落跡
18	白岩焼窯跡	仙北市角館町白岩前郷	4/21	100㎡	秋田大学	磁気探査・電気探査	近世：窯跡
19	沖田Ⅱ	大仙市北橋岡字沖田	6/9～9/10	2,900㎡	秋田県教育委員会	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業	近世：集落跡
20	半在家	大仙市高岡上郷字半在家	4/15～8/29	9,000㎡	大仙市教育委員会	経営体育成基盤整備事業	平安：集落跡・水田跡
21	橋岡焼大杉古窯	大仙市南外字大杉	9/8～10/3	130㎡	大仙市教育委員会	農業開発	近世：生産遺跡
22	布田谷地	大仙市北橋岡字下新屋	4/15～5/21	1,040㎡	大仙市教育委員会	経営体育成基盤整備事業	平安・中世：集落跡
23	払田柵跡	大仙市払田字長森	5/27～11/10	84㎡	秋田県教育委員会	学術調査(第137次調査)	縄文・古代：城柵官衙
24	払田柵跡	仙北郡美郷町本堂城回	11/4～12/25	108㎡	秋田県教育委員会	経営体育成基盤整備事業(第138次調査)	古代：城柵官衙
25	本堂城跡	仙北郡美郷町本堂城回字館間	5/19～7/31	3,500㎡	美郷町教育委員会	経営体育成基盤整備事業	平安・中世：集落跡・城館跡
26	本堂城跡	仙北郡美郷町本堂城回字館間	10/20～12/31	24㎡	美郷町教育委員会	学術調査	中世：城館跡
27	飛沢尻	仙北郡美郷町本堂城回字飛沢尻	8/1～9/12	4,200㎡	美郷町教育委員会	経営体育成基盤整備事業	平安：散布地
28	中屋敷Ⅱ	仙北郡美郷町土崎字中屋敷	10/27～12/5	770㎡	美郷町教育委員会	町道改良舗装工事	縄文：散布地
29	大鳥井柵跡	横手市大鳥町・新坂町	4/22～10/17	600㎡	横手市教育委員会	学術調査	平安：城館跡
30	町屋敷	横手市雄物川町南形字町屋敷・谷地前	9/11～9/24	1,051㎡	横手市教育委員会	経営体育成基盤整備事業	平安・中世：集落跡
31	樋向	横手市雄物川町会塚字財ノ神	5/2～5/27	90㎡	横手市教育委員会	経営体育成基盤整備事業	平安：集落跡
32	上大見内	横手市雄物川町会塚字財ノ神	5/7～7/25	1,980㎡	横手市教育委員会	経営体育成基盤整備事業	縄文・平安：散布地
33	石塚上台	横手市雄物川町会塚字上台	7/8～8/1	360㎡	横手市教育委員会	経営体育成基盤整備事業	平安：集落跡
34	会塚田中B	横手市雄物川町会塚字上大塚	7/22～8/19	720㎡	横手市教育委員会	経営体育成基盤整備事業	縄文・奈良・平安：集落跡
35	菅生田輪	雄勝郡東瀬村田子内字菅生田	8/25～10/9	125.5㎡	東成瀬村教育委員会	学術調査	縄文：集落跡

※番号は左の図の番号に対応します。遺跡名太字は次頁以下の概要報告遺跡。

しもの 下野Ⅱ遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県大館市本宮字下モ野107-1
- ②調査期間 平成20年6月13日～9月26日
- ③調査面積 2,250㎡
- ④遺跡の時代 縄文時代（早期・後期）、平安時代 中世
- ⑤遺跡の性格 墓域（縄文時代）、道路（平安時代）、集落（中世）
- ⑥事業名 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業
- ⑦事業関係機関 国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
- ⑧調査担当者 宇田川浩一・山田祐子・巴亜子

2. 調査概要

検出遺構				主な出土遺物	
縄文時代	フラスコ状土坑	1基	配石遺構	8基	縄文時代 土器（早期・後期）
	土坑	11基			石器（石鏃・石筥・石匙）
平安時代	道路跡	1条			平安時代 土師器
中世	竪穴状遺構	2基	掘立柱建物跡	3棟	
	柱列	3条	カマド状遺構	3基	
時期不明	柱穴様ピット	44基			

遺跡はJR東大館駅から西へ約4.7km、標高約53mの火砕流台地に立地しており、南西側には引欠川が流れている。調査の結果、縄文時代・平安時代・中世の遺構・遺物が見つかった。

縄文時代の遺構として、主に台地の縁辺部に土坑や配石遺構が見つかった。土坑の一つからは石鏃が6点出土した。内3点は石英、2点は鉄石英、1点は珪質頁岩を素材としている。石英と鉄石英は特徴的な色をした素材であることから、意図的に土坑に埋められた石鏃と推定され、副葬品であった可能性が考えられる。また、土器の底部が逆位で出土した土坑や、掘り込みを伴う配石遺構もあることから、これらのほとんどは墓であり、調査区は墓域だったと推定される。遺構外から出土した土器から、縄文時代早期か後期に属する墓域と考えられる。

平安時代の遺構として、道路跡が見つかった。調査区を通る埋没沢の北側縁辺部に沿って、東西に延びている。通行によって踏みしめられて浅い溝状に窪んだところに、西暦915年に降下した十和田a火山灰が堆積していることから、915年以前に利用されていたと判断される。

中世の遺構は、調査区を通る埋没沢を境として、北側に竪穴状遺構・掘立柱建物跡・柱列・カマド状遺構が、南側に竪穴状遺構・カマド状遺構が見つかった。南北それぞれの建物群は近接して位置しており、特に北側の建物群のほとんどは方角が揃っていることから、一組の屋敷であったと推定される。また、似た構成である南側の建物群も別の屋敷の一部であったと考えられる。これらのことから下野Ⅱ遺跡は、中世の屋敷のあり方を垣間見ることが出来る遺跡であることが分かった。

土坑から出土した
石鏃



平安時代の道路跡
(南西→)



中世の竪穴状遺構
(東→)



どうのさわ
堂ノ沢遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県大館市大子内字堂ノ沢53ほか
- ②調査期間 平成20年5月21日～8月5日
- ③調査面積 850㎡
- ④遺跡の時代 縄文時代（前期、中期、後期、晩期）
- ⑤遺跡の性格 集落跡、墓域
- ⑥事業名 一般国道7号鷹巣大館道路建設事業
- ⑦事業関係機関 国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
- ⑧調査担当者 谷地 薫・長谷川幹子

2. 調査概要

検出遺構				主な出土遺物	
縄文時代				縄文土器	前期・中期・後期・晩期
竪穴住居跡	8軒	土坑	5基	石器	石鏃・石匙・スクレイパー・
焼土遺構	4基	配石遺構	1基		不定形石器・磨製石斧・磨石・
フラスコ状土坑	67基				凹石
時代不明				製鉄関連遺物	鉄滓・フィゴ羽口
土坑	7基	炭窯跡	5基		
溝跡・柵列跡	2条	配石遺構	2基		

堂ノ沢遺跡は、旧大館市と旧鷹巣町の境界にある摩当山の北東の麓に位置し、摩当山から流れ下る割沢川とその支流の沢に南北を挟まれ、東側に突き出した標高約90mの丘陵上に立地する。調査の結果、縄文時代中期・後期の竪穴住居跡やフラスコ状土坑、後期・晩期の土坑墓などを検出した。

縄文中期の竪穴住居跡のうち1軒は、背後に急峻な山はだが迫る平坦地の最も北側に位置し、中央には長方形の石囲炉が、山側の一边には柱穴と溝を伴う土壇状の高まりが付属している。土壇状の高まりは竪穴を掘る当初から掘り残して構築されている。丘陵の最も南側の斜面にもう1軒の竪穴住居跡、北側から東側には、平坦面の縁に沿って大型のフラスコ状土坑6基が分布する。2軒の竪穴住居跡からは、円筒上層e式土器と大木8a式土器が共伴して出土した。

縄文後期中葉、十腰内Ⅲ～Ⅳ群期の竪穴住居跡4軒は丘陵の南縁から東縁の斜面に分布する。この範囲には貯蔵穴と推定されるフラスコ状土坑も重複して多数分布する。フラスコ状土坑の中には廃絶後半分ほど自然埋没したところで人為的に埋められたものもあり、土坑墓に転用された可能性もある。

縄文後期後葉壱付土器後半から晩期大洞B式期にかけての土坑墓21基は、丘陵上平坦面に集中する。土坑墓の中には、完形土器を副葬するものや、粗製深鉢を破碎した破片を埋土全体に混入しているものがある。この土坑墓群の中心部には空閑地があり、環状配列の土坑墓群である可能性がある。

堂ノ沢遺跡は小規模な遺跡であるが、円筒土器文化終末期の集落構造や土器文化の変遷、縄文後期から晩期の集落と墓域の変遷をたどる上で注目される遺跡である。

遺跡遠景（南東から）



縄文中期の竪穴住居跡
（南東から）



縄文後期の土坑墓と
副葬された土器（西から）



狼 穴Ⅱ遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県大館市釈迦内字狼穴2-18 外
- ②調査期間 平成20年6月13日～11月21日
- ③調査面積 3,800㎡
- ④遺跡の時代 縄文時代（前期）、古代（平安時代）
- ⑤遺跡の性格 狩猟場（縄文時代）、集落跡（縄文時代・古代）、製鉄遺跡（古代）
- ⑥事業名 一般国道7号大館西道路建設事業
- ⑦事業関係機関 国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所
- ⑧調査担当 柴田陽一郎・高橋和成・深沢恵里子

2. 調査概要

検出遺構		主な出土遺物	
縄文時代	竪穴住居跡 2軒 捨て場 4か所 フラスコ状土坑 1基 陥し穴 3基 土坑 2基 溝跡 2条	縄文時代	土器 石器（石匙・石錐・石鏃・石槍・石 鏃・磨製石斧・半円状扁平打 製石器・石皿・磨石・凹石）
平安時代	竪穴住居跡 3軒 土坑 1基	平安時代	土器（土師器・須恵器）
	製鉄炉 1基 溝状遺構 1条		

狼穴Ⅱ遺跡は、舌状台地（標高約77m）の先端部に立地する。今回の調査区は、台地上の平坦面とその台地の斜面（A区）、東側の平坦面（B区）に区分される。

A区平坦面では縄文時代前期の竪穴住居跡、陥し穴、フラスコ状土坑などを検出した。陥し穴の平面形は溝状で、規模の似た3基が並んで見つかった。最大のものは長さ3.55m、幅1.10m、深さ1.48mであり、比較的大規模といえる。東側斜面中央の捨て場では、円筒下層式の深鉢形土器や石匙などの石器類が多量に出土している。ここは300㎡ほどの広がりがあり、遺物包含層は地表から最深で約2.5mの深さがあり、その堆積層の最も厚い所は人の背丈ほどに達する。

A区平坦面北西側では平安時代の竪穴住居跡2軒が隣接しており、内1軒は重複して見つかった。この竪穴住居跡はほぼ同位置で建て替えのあったことが確認され、建て替え後の住居跡の規模は4.9×5.4mであり、壁溝も確認された。そして、覆土中に十和田a火山灰（10世紀前半）がレンズ状に堆積していたことから噴火前に造られたことが分かった。また、隣のもう1軒は火山灰層を掘り込んでいたことから噴火後に造られたものである。この他にこの住居跡西側の斜面から製鉄炉を検出した。底面と炉壁の一部は赤褐色に焼けており、炉の直ぐ脇の平坦な所からは木炭や鉄滓が見つっている。

以上のように調査の結果、縄文時代にはムラまたは狩猟場として利用され、平安時代にはムラの中で鉄生産を行っていたことが分かった。今回の調査区は舌状に張り出した台地縁辺部が中心であったが、台地北東側に平坦部が広がっていることから、遺跡範囲は北東側に続いていると推定される。

遺跡遠景
(南から)



捨て場遺物出土状況
(東から)



平安時代の竪穴住居跡
(北西から)



まえだおもて

前田表Ⅱ遺跡（平成20年度調査）

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県にかほ市両前寺字前田表145外
- ②調査期間 平成20年6月12日～10月10日
- ③調査面積 4,200m²
- ④遺跡の時代 古代（平安時代）、中世、近世
- ⑤遺跡の性格 集落跡
- ⑥事業名 一般国道7号仁賀保本荘道路建設事業
- ⑦事業関係機関 国土交通省東北地方整備局秋田河川国道事務所
- ⑧調査担当者 加藤 竜・築瀬圭二・藤本玲子

2. 調査概要

検出遺構				主な出土遺物			
古代・中世	土坑	61基	溝跡 10条	古代	須恵器	土師器	木製品
			柱穴様ピット 156基	中世	陶磁器	銭貨	木製品
近世			溝跡 1条	近世	陶磁器	土製品（仏像）	銭貨 木製品

前田表Ⅱ遺跡は、JR羽越本線仁賀保駅より北へ約1.4km、にかほ市両前寺地区の標高12.7～14.9mの沖積地に立地する。遺跡の東側には前田表遺跡や安倍館跡が立地する丘陵地（仁賀保高原北西端）が迫り、西側約0.5kmには日本海が広がる。遺跡の北側には阿部堂川が丘陵地から西流する。

調査の結果、遺構は平安・鎌倉時代の土坑・溝跡・柱穴様ピットと江戸時代の溝跡を検出した。調査区中央付近で検出した竪穴状の土坑は長軸196cm、短軸168cmで壁際に細い溝が巡り、底面で完形の土師器坏が倒立して出土した。この坏にはタール状の黒い付着物が認められ、灯明具の器に転用された可能性がある。また、逆位の土師器坏は漆の染み込んだ布が器面に貼り付いた状態で出土した。調査区北東側から南西側へ横断する大きな溝跡は平安時代に2条、江戸時代に1条、ほぼ同じ場所に造られている。平安時代の溝跡の底面の一部には板材が残り、樋として設置したものと考えられる。いずれの溝跡にも水の流れた形跡があり、灌漑施設の可能性がある。調査区北側からは鎌倉時代前半の手斧痕の残る直径約40cmのカツラの柱を、ほぼ南北方向に約2.6mの間隔で2基検出した。周辺から他に柱穴は検出されず、門や鳥居のような施設であった可能性がある。

出土遺物は平安時代の土師器や須恵器が最も多く、墨書土器が14点含まれる。そのうちの1点は須恵器坏の底部に文字「奏？」、他の13点は土師器坏の胴部に「㊦」と記されている。また、天然アスファルトが入った土師器坏も出土した。

今回の調査で見つかった遺構や遺物から、遺跡が最も利用されたのは平安時代と考えられる。しかし、調査区内からは竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの居住施設が見つかっておらず、当時の集落の中心からは離れていたと推測される。隣接する前田表遺跡や、本遺跡の南側にある平安時代の掘立柱建物跡が見つかった立沢遺跡など周辺遺跡との密接な関係も考えられ、城輪柵と秋田城を連絡する交通路の間に展開した集落の1つであった可能性が考えられる。

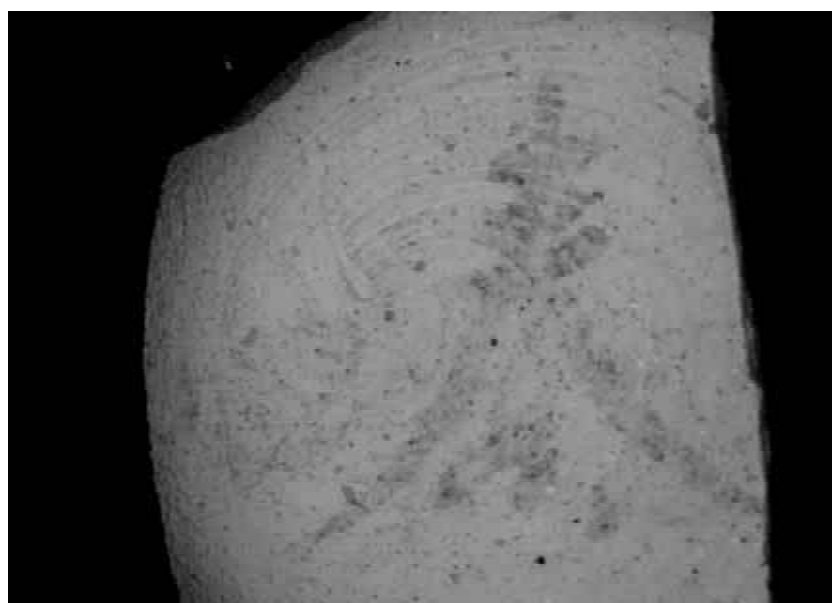
遺跡遠景
(北西から)



竪穴状の土坑
(南から)



須恵器坏の墨書
(赤外線写真)



おきた 沖田Ⅱ遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県大仙市北楯岡字沖田387外
②調査期間 平成20年6月9日～9月10日
③調査面積 2,900㎡
④遺跡の時代 古代、近世（江戸時代）
⑤遺跡の性格 遺物散布地（古代）、集落跡（近世）
⑥事業名 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業
⑦事業関係機関 国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
⑧調査担当者 袴田道郎・山村 剛・菅原孝志

2. 調査概要

検出遺構				主な出土遺物	
近世	掘立柱建物跡	18棟	焼土遺構	2基	古代 須恵器・土師器
	柱列跡	4条	溝跡	22条	近世 陶磁器・金属製品(煙管・銅銭・釘)
	カマド状遺構	9基	土坑	4基	石製品(砥石)
	井戸跡	4基	柱穴様ピット	501基	

沖田Ⅱ遺跡は、JR神宮寺駅より西北3km、旧雄物川河川跡沿いの河岸段丘である標高20～21mに位置する。遺跡の南0.3kmには国道13号線が東西に走り、北西2.5kmには江戸時代に設けられた羽州街道の一里塚がある。

掘立柱建物跡は18棟検出し、調査区北西側で確認した建物跡が最も規模が大きく、桁行5間（11.5m）×梁行2間（5.5m）で北と南、西の三面に庇が設けられていた。また建物跡の多くは、周囲に溝が巡っていた。井戸は4基検出され、井戸の壁面に当てていた長方形に組まれた木枠が残存しているものや、廃棄の際、井戸へ投げ込まれたと思われる江戸時代前期の肥前陶器碗が完形のまま出土したものなどがあった。カマド状遺構は9基検出した。その一つは同じ場所で作り替えをした痕跡があり、煙道は古いものが南を、新しいものは西を向き、遺構本体を屋根として覆っていた建物跡もカマドと同時に作り替えられていたことから、これらのカマド状遺構は同時に存在したのではなく、順次作り替えられていたことが判明した。

遺物は16世紀末～17世紀の陶磁器が大部分を占めており、日本海交易によって運ばれた肥前陶磁器が全体の約8割を占め、瀬戸美濃陶器や、貝焼に使用した貝風呂なども出土している。

調査の結果、この集落は江戸時代前期に当たる17世紀初頭から18世紀半ばまで存在していたことが判明した。しかし、18世紀半ば以降の遺物がほとんどないことから、集落は18世紀半ば以降に姿を消したと考えられる。その理由は18世紀後半に遺跡周辺であった度重なる洪水が原因と推定される。この遺跡は、近世秋田の地方の暮らしや羽州街道の成立を探る上で注目すべき遺跡である。

周囲に溝が巡る建物跡
(南東から)



木柱の残る井戸跡
(西から)



カマド状遺構
(南から)



へい う え も ん た じ り
平右衛門田尻遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県秋田市飯島字平右衛門田尻181外
- ②調査期間 平成20年6月12日～10月23日
- ③調査面積 7,700㎡
- ④遺跡の時代 縄文時代（後期）、弥生時代、古代（平安時代）、中世
- ⑤遺跡の性格 遺物散布地（縄文時代・弥生時代）、集落跡（古代・中世）
- ⑥事業名 広域基幹河川改修事業（鉄道橋・道路橋緊急対策事業）新城川
- ⑦事業関係機関 秋田県秋田地域振興局建設部
- ⑧調査担当者 山田徳道・磯村 亨・相馬美紗子

2. 調査概要

検 出 遺 構					主 な 出 土 遺 物		
平安時代	鍛冶工房跡	1軒	土坑	2基	縄文時代・弥生時代	土器	石器
室町時代	井戸跡	8基	土坑	58基	平安時代	土師器	須恵器 鉄製品
	溝跡	6条	焼土遺構	1基	室町時代	陶器	銭貨

平右衛門田尻遺跡は、JR上飯島駅の北約1kmに位置し、秋田市北部を東から西に向かって流れる新城川中流域の砂丘地上に立地する。

平安時代の遺構は、堅穴状の鍛冶工房跡を1軒検出した。長辺7m、短辺5mの東西に長い長方形をなし、鍛冶作業痕として焼土が3か所存在する。遺物は、土師器の他に、槍鉋、フイゴ羽口、鉄滓等の製鉄関連遺物が出土した。工房跡の東側約16mにある土坑からは、土師器坏が複数個体出土した。

室町時代の井戸跡は8基検出している。直径3～6mの円形に掘り込んだ大型のものと、一辺1mの方形に掘り込んだ小型のもの2種類があり、深さは1～4m、標高8m程で井戸底に達する。井戸底には湧水を溜めるために曲物が据え置かれ、その痕跡が白く輪状に残っている。杵や曲物等の木材は、底面レベルの地下水が枯渇したことにより消滅したと考えられる。15世紀代の珠洲系陶器が出土しており、埋没年代もこのころと推定される。また、複数の井戸跡の出土遺物に接合関係があり、これらの井戸はほぼ同時に埋没したようである。なお、井戸跡に伴う建物跡等の居住施設は検出しなかった。

遺跡のある砂丘地は、平安時代には集落の一部の作業場として、室町時代には集落とは離れた場所で井戸を掘り、何らかの目的で地下水を得る水場として利用されていたことが分かった。

本遺跡の南西約1.5kmには15世紀の青磁、珠洲系陶器等が出土した穀丁遺跡があり、その周辺は日本海海運でもたらされた物資を受け入れていた秋田湊と推定されている。本遺跡の性格は、井戸跡と同時期の集落が未発見であり詳細は不明であるが、少なくとも穀丁遺跡をはじめとするこの地域の中世遺跡群の一つとして位置づけられるものである。

小型の井戸跡
(南から)



大型の井戸跡
(南東から)



大型の井戸底に白く輪状に見える
曲物跡 (南から)



ちしゃづる
智者鶴遺跡

1. 調査要項

- ①所在地 秋田県由利本荘市東由利黒淵字境田39-8・10、字智者鶴47-3
②調査期間 平成20年9月1日～10月21日
③調査面積 280㎡
④遺跡の時代 縄文時代（後期・晩期）
⑤遺跡の性格 墓域、集落跡
⑥事業名 地方特定道路整備事業主要地方道羽後向田館合線
⑦事業関係機関 秋田県由利地域振興局建設部
⑧調査担当者 加藤朋夏・佐々木公法

2. 調査概要

検出遺構			主な出土遺物
土坑	33基	フラスコ状土坑 1基	土器（深鉢・浅鉢・単孔土器・注口土器）
配石遺構	11基	掘立柱建物跡 2棟	土製品（耳飾・土偶・円盤状土製品）
柱穴様ピット	159基	性格不明遺構 1基	石器（石鏃・石匙・磨製石斧・石皿） 石製品（異形石器・石棒・円盤状石製品）

智者鶴遺跡は、由利本荘市東由利庁舎や湯出野遺跡がある老方地区から南に約7km、八塩山（標高713m）の東約4kmに位置する。子吉川の支流である石沢川（高瀬川）の左岸で、南西方向から流れる小河川との合流点の標高約184mの段丘に立地している。

調査により遺跡は、河川に近い低位面と、これより一段高い高位面の2面に亘って形成されていることが判明した。低位面には縄文時代後期前葉～中葉の配石遺構や厚さが最大で約40cmの遺物包含層が良好に遺存していた。高位面は上部を削平されてはいたが、晩期の土坑や柱穴群が検出された。

低位面で検出された配石遺構のほとんどは小規模なもので、直径約1mの範囲に礫が配置されたものである。これを超える大規模なものは1基確認されているが、規模や形状ははっきりしない。小規模な配石10基のうち、7基には下部に土坑が検出された。土層の堆積状況などから、これらは墓と考えられ、配石は墓標の役割を果たしたものと考えられる。大規模な配石の下部には土坑は存在せず、小さな沢状の地形が自然に埋まった後に、配石遺構が造られていることが分った。小規模な配石とは目的を異にするものと考えられる。大規模な配石の周囲からは焼土塊や焼けた動物骨を含んだ土層が確認されている。配石周辺で行われた行為と関連する可能性がある。

高位面で検出された土坑は直径約1.2m、深さ約0.4mのものを中心とする。これらが墓坑なのか、日常生活に関わるものなのかは現段階では不明である。遺跡が、後期から晩期に至るまでの墓域・祭祀域であったのか、晩期になって日常生活の場へと変化したのか、今後検討していく必要がある。

調査区遠景
(南東から)



土坑上部の配石
(南から)



規模の大きな配石
(北西から)



4 刊行物一覧

遺跡名	柏木岱Ⅱ遺跡	発掘調査年	19年	発行年月日	20年7月
書名	秋田県文化財調査報告書第442集 柏木岱Ⅱ遺跡 — 高速交通関連道路整備事業県道琴丘上小阿仁線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—				
内容	遺跡の時代	縄文時代			
	遺跡の性格	集落跡			
	検出遺構	竪穴住居跡2軒 掘立柱建物跡4棟 土器埋設遺構2基 土坑4基 性格不明遺構1基 柱穴様ピット33基			
	出土遺物	縄文土器 三脚石器			

遺跡名	沖田遺跡・沖田Ⅱ遺跡	発掘調査年	19・20年	発行年月日	21年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第443集 沖田・沖田Ⅱ遺跡 — 一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—				
内容	遺跡の時代	縄文時代・平安時代・近世			
	遺跡の性格	縄文時代：散布地 平安時代：集落跡 近世：集落跡			
	検出遺構	平安時代：掘立柱建物跡1棟 土坑2基 焼土遺構2基 配石遺構1基 河道跡3条 近世以降：掘立柱建物跡18棟 土坑4基 カマド状遺構9基 焼土遺構2基 河道跡2条 柱列4条 井戸跡12基 溝跡27条 柱穴様ピット557基			
	出土遺物	縄文時代：縄文土器 平安時代：土師器 須恵器 墨書土器 近世以降：陶磁器 曲物			

遺跡名	坂下Ⅱ遺跡	発掘調査年	18年	発行年月日	21年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第444集 坂下Ⅱ遺跡 — 日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XXVIII—				
内容	遺跡の時代	縄文時代 平安時代			
	遺跡の性格	縄文時代：集落跡 平安時代：集落跡			
	検出遺構	縄文時代：竪穴住居跡3軒 焼土遺構6基 陥し穴状土坑2基 土坑3基 平安時代：竪穴住居跡18軒 掘立柱建物跡1棟 柱穴列5条 溝跡9条 土坑12基 柱穴様ピット106基			
	出土遺物	縄文時代：縄文土器 石器 平安時代：土師器 須恵器 砥石 鉄製品 鉄滓			

遺跡名	向様田A遺跡	発掘調査年	18年	発行年月日	21年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第445集 向様田A遺跡 －森吉山ダム建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書XX－				
内容	遺跡の時代	縄文時代			
	遺跡の性格	縄文時代：集落跡 祭祀跡			
	検出遺構	縄文時代：竪穴状遺構2基 掘立柱建物跡1棟 柱穴列4条 土器埋設遺構2基 配石遺構35基 フラスコ状土坑1基 土坑10基 柱穴60基			
	出土遺物	縄文時代：縄文土器 石器 天然アスファルト			

書名	秋田県文化財調査報告書第446集 遺跡詳細分布調査報告書	調査年	20年	発行年月日	21年3月
内容	平成20年度に実施した遺跡分布調査と確認調査の報告				

遺跡名	払田柵跡	発掘調査年	20年	発行年月日	21年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第447集 払田柵跡 －第137・138次調査概要－				
内容	遺跡の時代	平安時代 縄文時代			
	遺跡の性格	平安時代：城柵官衙遺跡 縄文時代：集落跡			
	検出遺構	第137次調査 縄文時代：土坑5基 焼土遺構3基 柱穴様ピット5基 平安時代：竪穴建物跡10棟 掘立柱建物跡1棟 土坑14基 溝跡1条 焼土遺構1基 柱穴様ピット35基 第138次調査 平安時代：外柵東門跡 材木塀角材列 土坑3基 溝跡2条			
	出土遺物	土師器 須恵器 瓦 土玉			

遺跡名	払田柵跡	発行年月日	21年3月
書名	秋田県文化財調査報告書第448集 払田柵跡Ⅲ —長森地区—		
内容	遺跡の時代	平安時代	
	遺跡の性格	城柵官衙遺跡	
	検出遺構	竪穴建物跡 掘立柱建物跡 鍛冶工房跡 土坑 柱列・板塀跡 溝跡 道路状遺構	
	出土遺物	土師器 須恵器 瓦質土器 青磁 緑釉陶器 灰釉陶器 鉄製品	

書名	秋田県埋蔵文化財センター研究紀要 第23号	発行年月日	21年3月
内容	<p>大島直行 講演録「遺跡は文化遺産だ」</p> <p>磯村 亨・吉川耕太郎 「三種町堂の下遺跡における縄文時代の石器集積遺構」</p> <p>高橋 学・五十嵐祐介・山本崇 「男鹿市小谷地遺跡出土の木簡」</p> <p>山村 剛 「秋田における貝風呂の一考察と下駄の編年について ～久保田城下の発掘調査から～」</p> <p>加藤朋夏 「秋田県北部の近世墓制について—鹿角市柴内館跡の調査から—」</p> <p>利部 修 「秋田県考古学関係文献抄録（9）—縄文時代②—」</p>		

書名	久保田城下の武家のくらし	発行年月日	20年10月
内容	<p>平成20年度 第1回企画展「久保田城下の武家のくらし」パンフレット</p> <p>I 近世城下町を掘る！</p> <p>II 久保田城下の武家屋敷</p> <p>III 久保田城下の暮らし</p>		

書名	秋田の狩猟文化	発行年月日	21年1月
内容	<p>平成20年度 第2回企画展「秋田の狩猟文化」パンフレット</p> <p>第1章 氷河期を乗り越えた狩人たち</p> <p>第2章 縄文時代の狩猟文化</p> <p>第3章 縄文の技を受け継ぐマタギ</p> <p>第4章 マタギ研究と考古学の先駆者—武藤鉄城氏—</p>		

5 平成20年度秋田県甘肅省文化交流事業

(1) 交流事業の概要

事業の趣旨

- ① 秋田県甘肅省文化交流事業は21世紀の人材育成を目指し、県・省双方が毎年2名程度の交流員を相互に派遣して、友好親善と相互理解を深めようという事業である。
- ② 県・省双方は、合同発掘調査などによる埋蔵文化財を主とした文化分野における友好交流を促進し、国際性豊かな人材を育成する。
- ③ 本事業は、2001（平成13）年を初年度とし、2010（平成22）年度までの10年間を単位とする事業である。

平成20年度の事業概要

- ① 甘肅省に派遣した秋田県交流員は、甘肅省博物館と甘肅省文物考古研究所で、甘肅省の文化財について研修するとともに交流を行った。

秋田県交流員 高橋忠彦 文化財保護室 埋蔵文化財班 主幹（兼）班長
丸谷仁美 秋田県立博物館 教育普及班 主任（兼）学芸主事
派遣期間 平成20年5月20日～平成20年12月19日

- ② 受け入れた甘肅省交流員は、秋田県及び日本の歴史や埋蔵文化財に関する研修とともに幅広く児童・生徒との交流を行った。

甘肅省交流員 党 栄華（ダン ロンホア Dang Rong Hua）
甘肅省文物考古研究所 文博館員（埋蔵文化財センター勤務）
王 玲秀（ワン リンシュウ Wang Ling Xiu）
甘肅炳靈寺石窟文物保護研究所 解説員（県立博物館勤務）

受入期間 平成20年8月26日～平成21年2月25日

- ③ 埋蔵文化財センターの事業として、秋田県甘肅省文化交流事業の成果を県民に還元し、中国の歴史と文化について理解を深めてもらうことを目的として、埋蔵文化財センター、県立博物館から秋田県交流員として今までに甘肅省に派遣された職員9名に加え、県側の合同発掘調査団長と本年度甘肅省から受け入れた交流員を講師に、県立明德館高校で社会人と高校生を対象とした科目履修講座「シルクロード通信－中国甘肅省の歴史、文化、人－」を開講した。

講座には9名の受講登録があり、夏季休業中を除き、5月13日から9月16日まで概ね週1回、計13回実施された。

講義は、派遣された交流員各自が研修、見聞、体験したものを中心に、考古学や合同発掘調査の成果などについて、この8年間に蓄積された豊富な写真資料と各自が作成したテキスト（資料）を駆使して行われた。今回は、中国の先史文化を旧石器時代から新石器時代まで概観し、さらに甘肅省交流員による青銅器文化や石窟寺院についての専門的な立場からの講義もあるなど、非常に中身の濃いものであった。中でも、磨嘴子遺跡の発掘成果や現在調査中の大堡子山遺跡の様子などは、他では知り得ない貴重な内容として受講生に評判であった。

明德館高校科目履修講座

月 日	タ イ ト ル	内 容	担 当 者
5月13日	オリエンテーション講座の概要	受講生の要望も聞きながら、13回の講座の概要を説明。	櫻田 隆
5月20日	秋田県と甘肅省の文化交流	文化交流の歩みを友好提携から概観し、秋田県の国際的活動の概要を理解する。	武藤祐浩 (文化財保護室)
5月27日	中国の先史文化①	中国の先史文化、特に大陸の旧石器時代文化について学ぶ。	吉川耕太郎
6月3日	中国の先史文化②	甘肅省を中心とする新石器時代の土器、彩陶について学ぶ。	小林 克
6月10日	シルクロードの発掘① －磨嘴子遺跡 漢代の墓－	平成15年から17年まで行われた武威市磨嘴子遺跡の合同発掘調査のうち、漢代の土洞墓の調査成果について概括し、報告する。	新海和広 (文化財保護室)
6月17日	シルクロードの発掘② －磨嘴子遺跡 新石器時代の墓－	磨嘴子遺跡合同発掘調査で見つかった、馬家窯文化期の墓地の調査成果について概括し、報告する。	村上義直 (文化財保護室)
6月24日	シルクロードの発掘③ －磨嘴子遺跡 新石器時代の村－	新石器時代の墓地の上位段丘で発見された集落跡について、中国の新石器時代集落全体と比較して報告する。	藤田賢哉
7月1日	シルクロードの調査① －大堡子山遺跡の発掘調査－	平成17年に行われた礼県大堡子山遺跡とその周辺での発掘調査の様子、西周から春秋時代の車馬坑や楽器坑が見つかった状況をスライドで紹介する。	菊池 晋 (文化財保護室)
7月8日	シルクロードの調査② －甘肅省博物館収蔵の文物から－	甘肅省博物館が所蔵する漢代から明代までの文物、雷台漢墓「銅奔馬」「銅車馬儀仗隊」、大堡子山「秦公鼎」、明代肅王「金鳳凰髮飾」などから、甘肅省の歴史的な重要性を考える。	石井志徳 (県立博物館)
7月15日	中国の博物館と文化財保護	中国で刊行されている文化財保護の概説書などを通し、中国の文化財保護教育がどのように行われているか、また国家文物局を頂点とする中国の文化財保護行政の仕組みの概略について解説する。	新堀道生 (県立博物館)
9月2日	中国青銅器文化	大堡子山遺跡出土の豊富な青銅器を通し、中国の青銅器文化について、省の専門家が直接に講演する。	党栄華 (甘肅省交流員)
9月9日	中国石窟考古学	敦煌をはじめとして世界的に有名な甘肅省の石窟寺院について、省の専門家が直接に講演する。	王玲秀 (甘肅省交流員)
9月16日	講座のまとめ	講座を総括し、今後の日中、県省の友好的な将来を展望する。	櫻田 隆

(2) 秋田県交流員の活動

① 活動の記録

月 日	内 容
5月20日	秋田空港発で北京到着
5月21日	北京空港発で蘭州到着
5月23日	俄軍館長に挨拶 韓書記主催の歓迎会
5月26日	歴史部で研修
6月12日	文物局に挨拶 四川地震の見舞金を渡す 楊文物副局長らと交流事業の今後について協議を行う
7月16日	開放部で研修(～8月1日)
7月27日	青海省での研修(～7月28日) 青海省博物館・塔尔寺・青海湖
8月3日	炳靈寺での研修 炳靈寺
8月5日	保護部で研修(～11月28日)
8月25日	敦煌方面での研修(～8月30日) 嘉峪関・嘉峪関長城博物館・雅丹地貌・玉門関・陽関・陽関博物館・敦煌莫高窟・敦煌研究院・鳴砂山
9月29日	国慶節の休日(～10月5日)
10月29日	来年度以降の交流事業についての協議(甘肅省文物局)
11月15日	西安での視察研修(～11月19日) 臨潼博物館・華清池・兵馬俑博物館・咸陽博物館・茂陵博物館・黄土民俗村・懿徳太子墓博物館・乾陵・法門寺・半坡博物館・陝西省歴史博物館・漢陽陵博物館・大雁塔
11月27日	考古所職員らによる送別会
11月29日	天水市での研修(～11月30日) 伏羲廟・天水民俗博物館・麦積山
12月1日	帰国準備(～12月12日)
12月10日	韓書記主催の送別会
12月11日	保護部主催の送別会
12月12日	歴史部主催の送別会 送別会の返礼
12月15日	北京での研修 万里長城・十三陵・北京首都博物館
12月19日	9:00北京発、成田経由、19:10秋田空港着

② 交流員の感想

敦煌紀行

県教育庁生涯学習課文化財保護室 主幹 高橋忠彦

空はあくまでも青い。青いというよりは、群青色と言ったほうがよりその色に近いが、適切な色彩名は他には見あたらない。敦煌莫高窟の北大仏殿の空を見上げた時の感想である。

敦煌に向けて蘭州駅を出たのは8月26日夜の10時過ぎ、日本の特急B寝台とほぼ同じ規格の寝台に揺られ、翌朝の夜明けを酒泉駅で迎え、およそ20分ほどで今回の敦煌旅行の出発点である嘉峪関駅に着く。嘉峪関は、明代に国土防衛のために造られたとはいえ、高さ11mの城壁に囲まれた3万㎡に及ぶ広大な敷地と、城壁に取り付く楼閣を見るとまさにここが、西の遊牧民族に対する一大防衛拠点であったことが頷けるし、天下雄関と言われる要塞そのものである。また、城壁からは南側の荒野に延々と長城が伸びており、その先には雪を頂いた祁連山脈が臨める。この広漠たる大地で覇権を争った当時の光景が思い起こされる。

嘉峪関からさらに長城第一墩に向かう。嘉峪関から臨んだ長城は北大河の絶壁で途絶える。河北省の山海関に端を発した万里の長城のまさにここが終点である。絶壁は高さ80mにもおよび、絶壁上に張り出したガラス張りの観覧場所から下を見ると、北大河の流れが細い筋にしか見えないほどである。黄土高原の溪谷を挟んで見る祁連山の眺めもすばらしい。翌朝は7時30分出発というハードな旅となる。目指すはアジア地質博物館の「雅丹地貌」というところ。敦煌市内から西へバスに揺られること3時間あまり、周りは灰色の砂礫だらけのゴビ灘のまっただ中を我々が走る道路だけが地平線に向かってまっすぐに延びている。「雅丹地貌」については全くの認識不足であったが、着いてみるとゴビ灘のなかに奇岩怪石の群れが見えてきた。長い年月に風に晒された岩が、異様な形に変化したものらしく、これらが林立している。この奇岩の中を巡るために、2台のバスに分乗したが、なんと天気が急変、横殴りの雨が降ってきて気温も10度以下まで下がるという悪天候に変わり、バスから降りることもなく車窓をたたきつける曇まじりの雨の間から周りの風景を眺めるだけであった。同行した甘肅省博物館職員は「この雨は人工雨です」というが、年間降水量がわずか数ミリ程度なのに、わざわざこの日に人工雨を降らさなくてもという気がしないでもない。「雅丹地貌」を後にして玉門関に向かうが、時間がないということで玉門関の入り口に立っただけで切り上げることになった。予定だと漢代の長城を見ることになっていただけに何とも残念である。その後、陽関と陽関博物館に向かう。

陽関は「西、陽関を出ずれば故人無からん」と詩にも詠われた所で、当時は旅人にとってここから西が全くの未知の世界であったのだろう。陽関の遺跡は、現在の陽関博物館の下に眠っており、博物館そのものが当時を復元した建物になっていることから、博物館を見学することで陽関の歴史をたどることができる。陽関からは、漢代のものといわれる烽火台を臨むこともでき、朽ちた烽火台と茫洋たる風景は、かつてのシルクロードを彷彿とさせる。

翌日は、今回の研修のメインである敦煌莫高窟の視察である。莫高窟に行くつれて、周辺の山並みが黄色い山並みを呈してきて、空はあくまでも澄み切っている。莫高窟は現在確認されている石窟だけでも492窟あり、北涼時代(5世紀前半)から1000年以上にわたり開削され、特に壁画は総面積が4500㎡で、これらを全て横にならべると30kmにもなるという。まさに「砂漠の大画廊」と言われるゆえんである。敦煌文書が隠されていた17窟をはじめとして、北大仏殿のある96窟、南大仏殿のある130窟など、いずれも各時代の仏教美術を反映していて興味深い。敦煌の後は鳴砂山に向かう。澄み

切った紺碧の空の色とくっきりした鳴沙山の稜線は、いくら自然が作り出したものとはいえ、この世のものとは思えない美しさである。鳴沙山から月牙泉までただ黙々と歩く。月牙泉は枯れることのない泉で、まるで砂漠の中に浮かぶ桃源郷のような趣である。月牙泉でしばし心地よい風に吹かれ、帰りもまた鳴沙山の細かな砂の感触を楽しむ。帰路は新装となった敦煌駅からまたしても寝台列車の旅となり、8月30日の朝10時に蘭州駅に帰着したのである。

敦煌方面への研修は、4泊5日のうち車中泊2泊というきつい旅程ではあったものの、それにもまして敦煌を中心とする中国の歴史に思う存分触れる旅であった。



夜明けの酒泉駅



嘉峪関



嘉峪関から延びる長城



北大河(右後方が長城の末端)



莫高窟96窟(北大仏殿)



鳴沙山



月牙泉

(3) 甘肅省交流員の活動

① 活動の記録

月 日	内 容
8月26日	来日
8月27日	オリエンテーション
9月2日	明德館高校科目履修講座
9月3日	教育長表敬／教育庁歓迎会
9月16日	明德館高校科目履修講座
9月30日	前田表Ⅱ遺跡研修
10月16日	狼穴Ⅱ遺跡研修、青森視察（～10月18日）
10月21日	中央調査班研修（～10月23日）
11月4日	県立博物館研修（～11月7日）
11月11日	関東・関西視察旅行（～11月14日）
11月28日	大曲農業高校太田分校学校交流
12月5日	花館小学校学校交流
12月20日	秋田大学講演
2月10日	教育長へ帰国表敬／教育庁送別会
2月13日	県内旧正月行事見学（～2月15日）
2月25日	帰国



縄文土器の接合を試みる党交流員



前田表Ⅱ遺跡での研修

② 交流員の感想

甘肅省文物考古研究所 党栄華

私は2008年8月27日から2009年2月24日まで6か月180日間、秋田県埋蔵文化財センターで研修を行いました。自身の努力と周囲の支援のおかげで、研修については全て完了することができました。ここに支援いただいた埋蔵文化財センターの全職員に心より感謝の意を表し、以下に秋田県埋蔵文化財センターの発掘調査現場である前田表Ⅱ遺跡、智者鶴遺跡、狼穴Ⅱ遺跡、払田柵跡での研修報告をします。

前田表Ⅱ遺跡はにかほ市に所在し、4,200㎡が発掘調査されていました。時代は平安時代と江戸時代で、江戸時代の暗渠のために平安時代の出土遺物は比較的少なかったのですが、その中で私たちが見ることができたものに銅銭があります。銅銭の一枚には「朝鮮通宝」と書かれたものがありました。

智者鶴遺跡は由利本荘市に所在し、280㎡が発掘調査されていました。時代は縄文時代後期から晩期で、墓や祭祀に使われた土坑が見つっていました。出土遺物には石器や土器などがあります。遺跡では墓が見ついているとのことでした。中国の墓地では墓標があるように、日本のこのような遺跡での墓に使われる石をそうした表示と理解すれば良いのだと納得しました。

狼穴Ⅱ遺跡は大館市にあり、3,800㎡が発掘されていました。国道7号の大館西道路建設に伴う発掘調査で、縄文時代前期（約5,500年前）の竪穴住居跡や、土坑、狩猟のための陥し穴、平安時代（約1,000年前）の竪穴住居跡が見つっていました。縄文時代前期の狩猟場であり、平安時代の村落で

あるとのことでした。

弘田柵跡は大仙市の埋蔵文化財センターの正面にあります。埋蔵文化財センターが建てられるに際し、この遺跡があったためその場所が選ばれたとのことでした。何故柵跡と呼ばれるかについては、地上3.6m、地下1mの柵木で囲まれているからということでした。外柵の総延長は3,600m、12,800本の柵木が使われ、総面積は878,000㎡とのことでした。1902年に初めて発掘されてから100数十次にわたる発掘調査が進められ、9世紀初めに創建され、以来150年間にわたって使われたことがわかっています。出土した遺物には石器や陶器、中国産青磁、硯、木簡などがあり、平安時代の官衙遺跡であることがわかっています。なお、最も重要なことに遺跡の西側で鍛冶遺構が発見されていることが挙げられます。しかし、奇妙なことにこの遺跡について文献上に何の記述もありません。2008年の発掘調査地としては西側の調査区を参観しました。

以上の県内発掘調査遺跡での研修のほか、県外研修として青森県立郷土館、三内丸山遺跡、京都国立博物館、東京国立博物館、奈良国立博物館を見学し、さらに明德館高校、大曲農業高校太田分校、花館小学校、秋田大学での活動にも参加し、甘肅省の青銅器文化等をスライドによって紹介しました。



整理作業研修の様子



東京国立博物館にて



京都・東寺観智院にて



縄文風クッキーづくりに挑戦

6 活用・普及事業

埋蔵文化財センターは遺跡の発掘調査や調査を通じての研究と指導の業務を行っている。また、これらの成果と集積された数多くの文化財を活用して、秋田の歴史・地域の歴史を県民に発信するため活用・普及事業を積極的に推進している。本年度はセンター主催事業とともに他機関との連携を企画し、より多くの方々に文化財に触れあう機会を提供した。

(1) 平成20年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会

秋田県埋蔵文化財センターでは、県内で発掘調査を行った遺跡の調査成果を広く県民に知ってもらい埋蔵文化財の保護について理解を深めてもらうことを目的に、昭和56年度から毎年報告会を開催している。

今年度は平成21年3月7・8日の両日、男鹿市民文化会館を会場に開催し、県内外から450名（初日230名、2日目220名）の参加者があった。

会場では、報告に熱心に耳を傾ける人や質問する人、展示された遺物を写真撮影する人など、盛況のうちに2日間が終了した。

<報告遺跡>

3月7日（土）

1 平成20年度県内発掘調査の概要

2 史跡 払田柵跡（大仙市・美郷町）～謎の巨大城柵の果たした役割とは～

高橋学 県教育庁払田柵跡調査事務所主任学芸主事

3 史跡 秋田城跡（秋田市）～ついに発見！外郭西門～

秋田市教育委員会 小野隆志氏

4 前田表Ⅱ遺跡（にかほ市）～海辺の平安遺跡～

築瀬圭二 中央調査班学芸主事

5 大鳥井柵跡（横手市）～後三年合戦と清原氏の実像に迫る～

横手市教育委員会 島田祐悦氏

6 平右衛門田尻遺跡（秋田市）～砂に消えた中世の井戸跡～

磯村亨 中央調査班学芸主事

7 史跡 脇本城跡（男鹿市）～海を見下ろす城～

男鹿市教育委員会 五十嵐祐介氏

3月8日（日）

1 秋田県・甘肅省文化交流事業 平成20年度の交流事業報告

丸谷仁美 博物館主任（兼）学芸主事

2 狼穴Ⅱ遺跡（大館市）～縄文の狩場と縄文・平安のムラ～

柴田陽一郎 調査班副主幹

3 堂ノ沢遺跡（大館市）～山あいの縄文集落～

谷地薫 中央調査班主任学芸主事

4 世界遺産登録を目指して 一特別史跡大湯環状列石・史跡伊勢堂岱遺跡一

高橋忠彦 秋田県教育庁生涯学習課文化財保護室主幹

<講演>

演題 「世界を目指すJ OMON」

講師 青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡保存活用推進室長 岡田康博氏

<写真パネル・出土品展示遺跡>

下野Ⅱ遺跡（大館市）、智者鶴遺跡（由利本荘市）、県指定史跡 白岩焼窯跡（仙北市）、

楢岡焼大杉古窯（大仙市）、半在家遺跡（大仙市）、沖田Ⅱ遺跡（大仙市）、

県指定史跡 本堂城跡（美郷町）、町屋敷遺跡（横手市）、菅生田捨遺跡（東成瀬村）



築瀬学芸主事による前田表Ⅱ遺跡
発掘調査の報告



報告会場の様子



岡田康博氏の講演



発掘調査出土品に見入る参加者



研究者の疑似体験コーナー

(2) 遺跡見学会

埋蔵文化財センターでは、発掘調査の成果を速報的に現地で県民の方々に見ていただくために、発掘調査の期間中の休日を利用して発掘調査現場を公開する遺跡見学会を開催している。現場では出土した遺構や遺物を公開し、担当者が解説を行っている。今年度は大館市堂ノ沢遺跡、由利本荘市智者鶴遺跡、秋田市平右衛門田尻遺跡などで見学会を実施し、延べ506名が遺跡を訪れた。会場では参加者が解説を聞きながら、縄文時代や古代の人々の暮らしに各々思いをよせていた。

遺跡名	日時	公開内容	参加者
堂ノ沢遺跡 (大館市)	6月28日(土) 13:30~15:00	縄文時代の集落跡・墓域(竪穴住居跡、フラスコ状土坑、配石遺構) 他	120名
下野Ⅱ遺跡 (大館市)	9月6日(土) 13:00~15:00	縄文時代の墓域(土坑、配石遺構)、平安時代の道路跡、中世の集落跡 他	75名
狼穴Ⅱ遺跡 (大館市)	10月18日(土) 13:30~15:30	縄文時代の集落跡・捨て場・陥し穴、平安時代の集落跡・製鉄遺構 他	102名
智者鶴遺跡 (由利本荘市)	10月18日(土) 10:30~11:50	縄文時代の集落跡・墓域(掘立柱建物跡、配石遺構、土坑) 他	74名
平右衛門田尻遺跡 (秋田市)	10月19日(日) 13:30~15:00	平安時代の鍛冶工房跡、室町時代の井戸跡 他	125名



堂ノ沢遺跡



下野Ⅱ遺跡

(3) 学校(教育)サポート

① セカンドスクール

ア) 利用状況

学校	小学校	中学校	特別支援学校	高等学校	合計
利用件数	32	15	1	8	56
利用人数	1,088名	284名	3名	181名	1,556名

イ) 活動の具体例

- 1) 縄文文様を生かした「文様染め体験」
- 2) 火起こしの歴史と工夫を学ぶ体験
- 3) 特別展示室や発掘調査現場の見学
- 4) 払田柵跡の発掘成果を生かした「木簡づくり」
- 5) 大昔の人々の知恵に学ぶ「石器づくり」



角間川小学校 6年生

ウ) 20年度の成果



太田中学校 1年生

今年度は展示見学や体験活動の時に学校近辺の遺跡や出土品についても言及し、地域の歴史や埋蔵文化財をより身近なものとして考えられるよう工夫した。また、埋蔵文化財センターの専門性を反映させるものとして、新たに「石器づくり」を活動内容に加え、黒曜石や頁岩を材料に使い、鹿角を道具にして、実際の石器製作と同じ方法を体験できるようにした。

② ボランティア・職場体験（インターンシップ）

平成18年度から、セカンドスクールの利用の一環としてボランティア活動や職場体験（インターンシップ）の受け入れを始め、今年度は中学校1件3名、高校2件4名の利用があった。

ボランティアは社会貢献や社会参加の活動を通じて豊かな人間性を育むことをねらいとし、職場体験（インターンシップ）は職業に関する理解を深めることを目的として行った。



西仙北西中学校作業体験

③ 発掘調査模擬体験

1) 設置のねらい

発掘調査についてはマスコミ報道を通し広く関心を引くようになり、埋蔵文化財センターが行っている活用事業や現地見学会には多くの参加者が集まるようになっている。こうした状況に合わせ、一般あるいは学校等から体験発掘を要望する声も高くなっている。現在、埋蔵文化財センターでは夏休み期間中に行われるワクワク体験の1日を体験発掘にあて、こうした要望に応えるようにしているが、周辺遺跡などの発掘調査期間に合わせて実施しており、調査工程との関係では実施が困難な場合もある。そのため、実際の遺跡ではないが擬似的体験設備を埋蔵文化財センター敷地内に設け、こうした要望に答えられるようにする。またセカンド・スクールの利用の現行メニューに加え、擬似的体験および簡単な記録作成を通して、調査がどのように進められるかを実地に理解できるようにする。

2) 設備の位置・規模

設備は埋蔵文化財センター第1収蔵庫の西側に隣接した空閑地とする。ポプラと第1収蔵庫外構との間に6m四方の区画を設け、内部に体験発掘できるような模擬遺構を設ける。

3) 設備の内容・構造

【竪穴住居構造】

規模・形状：径4mの略円形

壁の高さ：15cm

内部施設：柱穴、石囲炉

擬似的な体験発掘ではあるが、実際の調査で行っている遺構全体のプラン確認、覆土掘り上げ、床面検出、炉および柱穴検出、柱穴掘り上げなどの遺構発掘の工程が順序を追って体験可能なように基礎造成した。実際には1辺6m高さ30cmの木枠を設置し、地山にあたる部分にはローム質土を充填し、その中に竪穴住居構造を造作した。覆土は掘削しやすいよう砂～シルト質土とし、遺構のほぼ半分の深さまで充填した。また、遺構内には複製の土器破片、石器を住居での使用状況を推定できるように埋め置いた。また炉は石囲炉とし、炉内には焼土を敷いた。



疑似体験設備内模擬住居跡（平面）

疑似体験設備内模擬住居跡（断面）

4) 実際の活用

完成した設備を用いて9月9日に体験発掘を行った。対象は西仙北西中学校の1年生から3年生までの男女6名である。ちなみにどの生徒も発掘現場を見学したなどの経験はなく、擬似的とはいえ発掘を体験するのは初めてであった。体験の時間割はおおむね以下のとおりである。

9：00～9：40 屋内において竪穴住居の模型を用い、縄文時代の住居の構造を理解する。

9：50～11：30 屋外の発掘疑似体験設備で実際の発掘作業。

11：30～12：00 発掘した竪穴住居の状況（輪郭、炉、柱穴、出土した土器・石器など）を実際の調査で使用する遺構調査カードにスケッチして記録する。

……………休憩（12：00～13：00）……………

13：00～13：30 スケッチした遺構カードの裏面項目に観察した結果を箇条書きで記入する。

13：30～14：00 記入した内容を元に6人でディスカッションし、その後に代表者一人に縄文時代の竪穴住居のなかでの生活について発表してもらう。

14：00～14：30 特別展示室で実際の縄文土器や石器、さらには遺跡の航空写真などから、暮らしに用いられていた道具や、本物の遺物について解説をおこない、さらに知識を深める。

縄文時代の住居については、小学校6年の教科書に載せられた復元家屋の写真やイラストでイメージできているが、実際の柱の骨組みや柱根が住居内の床に埋め込まれていること、また、炉が住居中央に石囲いで組まれていることなどの細部についてはほとんど理解できないものと思われる。したがって、実際の発掘を行う以前に予備的に屋内で模型を用いて住居の構造や住居の埋まり方などを学習した（写真①）。



次いで、実際の体験設備での発掘を始めた。円形プランの住居を直径で6分割し、分割した1区画ごとに1名の生徒が担当した。住居跡内の埋土は7cmほどで充填されている。埋土の総量は約0.9立方メートルであり、生徒一人あたりの掘削土量は0.15立方メートルであるが、正味1時間半強なので中学生が掘り上げる土量としてはまず適当な量であった。掘削は移植コテと手箕、手箒を用いて進めたが、始めてしばらくして埋められた土器や石器、さらには炉石などが移植コテに触り出すと複製であっても緊張した感じが伝わっていた（写真②）。



生徒たちにはあらかじめ発掘して見つかったものはできる限り動かさないように指示したが、手箕で埋められた土器や石器の全体を丁寧にあらわすあたりは実際の遺跡発掘以上の慎重さで臨んでいた。一通り埋土が取り除かれると床面に柱穴が4か所現れたので、これらについては半裁して柱穴の深さがわかるように掘削した（写真③）。



掘削が完了して全体の形が見えたところで、遺構カードの裏側の方眼を利用して住居の状況をスケッチした。生徒には住居全体の大きさが4mであることは教えていたが、方眼の升目にあわせ縮尺まで考慮して輪郭を描く生徒もいた。また、巻尺を与えていたが柱穴の大きさや炉石の大きさ、土器の大きさなどを測って記入したり、また、土器や石器の状況を観察してその用途などを記入する生徒もいた（写真④）。



屋内に戻り休憩後、記録したスケッチをもとに遺構カードの裏面の「規模・形態」「遺物等の検出状況」「所見（時期・性格etc）」に30分の時間内で箇条書きにして記入してもらう。スケッチにあわせ、午前中の発掘状況を思い出しながらの記入であったが、要する時間は30分ほどで適当であった。最後の「所見」欄には、記入に先立って3つテーマを与えた。家族は何人か、食事はどうやって作っていたか、食材はどのように手に入れたかの3つである。3つのテーマとも、住居内から出土した土器や石器の種類・用途から考えられるような問題である。ちなみに土器は炉の近くに深鉢形土器1個体を、炉の北側に小型土器を3個体、石器では炉の東側に剥片集中箇所を1箇所のほか、石槍を1本、炉の西側には磨石と石皿をセットにして埋めていた。

遺構カードへの記入が終わったところで、特に「所見」欄の3つのテーマについて6人で話し合いをしてもらい、代表1名に話し合った結果を発表してもらった。発表については講評をおこなった。

発掘した結果についての成果の取りまとめができた段階で、場所を特別展示室に移し、実際の県内縄文遺跡の出土品をもとに説明を加えた。住居内での生活については体験発掘やその後の記録、さらにディスカッションを通して理解が深まっており、種類豊富な実際の出土品についての説明もその理解に続くようなかたちで知識を増やすことになったと思われる。

5) 成果と今後の課題

擬似的な発掘体験設備を製作・設置し、実際に活用して予想以上の手応えを感じることができた。以下に成果と課題をまとめる。

【成果】

・縄文時代の生活を復元するための、土器や石器など任意の材料を設備の中の任意の場所に用意できること。擬似的設備であることの特長であるが、これにより任意に準備した事実を発掘することで、さまざまな物語が自由に再構成できる。

・単に発掘するだけでなく記録やその後のディスカッションを通し、事実から推理して生活の様子を復元するという考古学の基本が学習できる。

【課題】

・成果に関係し、物語を各種の状況に応じて再構成するためのいくつかのパターンを開発する必要がある。テーマによっては縄文時代の住居跡だけではなく、カマドを備えた古代住居も準備して、屋内の調理・採暖設備が現代の家屋にどのようにつながるかなどを学習することも可能であろう。

・発掘後記録をとる部分は体験学習の核心部分である。今回はわれわれが実際に使う遺構カードをそのまま用いたが、項目構成を体験発掘用にアレンジする必要がある。模型を用いた事前学習や、体験やディスカッション後の展示室の説明などにも使えるようなテキストのような体裁も考えられる。

(4) 主催事業

① 企画展



今年度は2回の企画展を実施した。第1回目は「久保田城下の武家のくらし」と題して平成20年5月30日～9月30日までの期間で開催した。これに伴う講演会を6月29日に行い、113名の参加者があった。

第2回目は「秋田の狩猟文化を考える」と題して平成20年11月8日～平成21年2月27日までの期間で開催した。また、本企画展とあわせて、公開セミナー「秋田の狩猟文化」を平成20年12月13日に、「冬休み！石器と弓矢を作ろう！」を平成21年1月10日に、講演会+座談会「秋田の狩猟文化を考える」を平成21年2月1日に、特別セミナー「秋田の狩猟文化を考える－Part 2」を平成21年2月21日に実施した。



なお、第1回企画展は特別展示室の2分の1を、第2回企画展は特別展示室の全面を使用し、常設展示を撤収した。

【平成20年度第1回企画展「久保田城下の武家のくらし」講演会】

講 師	講 演 題	参加者
埋蔵文化財センター中央調査班 学芸主事 山村 剛	講演1「古川堀反町遺跡の調査」 武家屋敷の変遷を発掘調査の成果から解き明かす。	113名
秋田市立佐竹史料館 館 長 日野 久	講演2「久保田城下の武家のくらし」 旧黒澤家に伝わる品々から武家のくらしを紐解く。	



第1回企画展の様子



講演会の様子

【平成20年度第2回企画展「秋田の狩猟文化」公開セミナー】

司会・パネリスト	内 容	参加者
埋蔵文化財センター 副 所 長 櫻田 隆 主任専門員 小林 克 学 芸 主 事 杉井克之 文化財主任 吉川耕太郎	秋田の狩猟文化について、実際に企画展を担当した埋蔵文化財センター職員をパネリストとして座談会形式で進める。現代のマタギと先史時代の旧石器時代・縄文時代を比較させながら、狩猟具と狩猟の方法・狩猟儀礼を切り口として参加者とのやり取りを交えて自由な雰囲気で行う。	28名

【冬休み！石器と弓矢をつくろう】

第2回企画展と関連して、近隣の小学生を対象として実施した。参加者は小学校1年生から6年生まで14名であった。当日は、展示見学（20分）、石器づくり（30分）、弓矢づくり（20分）のあと、屋内で標的にむかって弓矢体験（40分）を行った。



第2回企画展の様子



弓矢体験

【平成20年度第2回企画展講演会+座談会「秋田の狩猟文化を考える」】

講師	講演題・内容	参加者
秋田県立博物館 主任(兼)学芸主事 丸谷仁美氏	講演1「民俗誌にみる秋田の狩猟文化」 マタギにみる民俗事例を紹介。	206名
東京大学大学院 教授 佐藤宏之氏	講演2「先史時代の狩猟文化」 秋田を中心に北東アジアの狩猟文化を概観。	
座談会司会：岡村道雄氏 (奈良文化財研究所名誉研究員) パネリスト：佐藤宏之氏 丸谷仁美氏	「秋田の狩猟文化を考える」 先史時代から現代へと続く狩猟文化の観点から、秋田の歴史を紐解く。	

(会場：大仙市仙北ふれあい文化センター)



講演会場



座談会の様子

【平成20年度第2回企画展「秋田の狩猟文化」特別セミナー】

講師等	講演題・内容等	参加者
東北芸術工科大学 教授 田口洋美氏	講演「仙北・阿仁マタギの狩猟習俗について」 豊富な調査事例から秋田のマタギ文化を探る。	91名
田口洋美氏 払田柵跡調査事務所 主任学芸主事 高橋 学 埋蔵文化財センター 主任専門員 小林 克(司会) 文化財主任 吉川耕太郎	座談会「秋田の狩猟文化を考えるーPart 2」 秋田の狩猟文化を旧石器時代・古代・マタギそれぞれの観点から語らい、秋田の歴史・文化や独自性を明らかにする。	

(会場：仙北市角館樺細工伝承館)



田口洋美氏の講演



座談会

② 古代体験広場2008

今年度は埋蔵文化財センターを主会場として、大仙市と横手市の教育委員会に共催いただき、外部講師による講演・ガイドを行うなど、内容を充実させて3回実施した。

	実施期日	事業内容
第1回	8月16日(土)	<p>テーマ：つくる 【参加者20名】</p> <p>概要：①旧石器時代についての講話、石器製作実演・解説 講師・小菅将夫氏(群馬県みどり市岩宿博物館副館長) ②石器づくり(頁岩・黒曜石を使っての石器製作体験)</p>
第2回	9月7日(日)	<p>テーマ：めぐる 【参加者26名】</p> <p>コース：秋田県庁 → 埋蔵文化財センター → 払田柵跡 → 民家苑木戸五郎兵衛村 → 雄物川郷土資料館 → 後三年の役金沢資料館 → 金沢城跡 → 秋田県庁</p>
第3回	10月5日(日)	<p>テーマ：たべる 【参加者10名】</p> <p>概要：①古代食について(埋蔵文化財センター職員による講話) ②古代食づくり&試食 ドングリの粉を使ったクッキー ホオの葉を使った蒸し焼き(鶏肉、椎茸、サツマイモ)</p>

第1回目は岩宿博物館の小菅副館長を講師に迎え、旧石器時代と石器製作について、実演を交えて解説していただいた。その後、各参加者が頁岩と黒曜石を使い、実際に製作体験を行った。黒曜石の割れ易さに参加者一同驚き、頁岩の加工に苦労しながらも、随所で講師による適切なアドバイスがあり、終了時には各自見事な石器を完成することができた。「作業に集中したため、暑さも気にならなかった」など、大変満足だったという感想が参加者全員から寄せられた。



第2回目は、時折激しく雨が降る天気で、外での見学(払田柵跡、金沢城跡)の実施が危ぶまれたが、折良く雨も止み、スケジュール通り行うことが出来た。特に後三年の役金沢資料館と金沢城跡では専門のガイドに丁寧な解説をいただき、参加者からも「今まで知らなかったことを知ることができた」など非常に喜ばれた。また車中で行ったセンター職員によるガイドも好評だった。

第3回目はセンターの広場で行われた。1時間程度の講話の後、男鹿石を使ったカマドづくりと、マイギリ式での火起こしを体験した。続いてホオの葉に包んだ食材をカマドに並べ、その上に土をかける蒸し焼きを行った。1時間後、土を寄せて取り出し全員で試食をしたが「素朴な味でとてもおいしい」という感想だった。その後、下ごしらえをしていたドングリクッキーを石の上で焼き、試食をした。焼き加減が難しかったものの、こちらも「意外とおいしい」と好評であった。



③ 平成20年度縄文発見・ワクワク体験

主に県内の小・中学生と保護者を対象に、勾玉・土器製作や縄文文様染め、遺跡発掘体験などにより、原始・古代への夢を育んでもらい、昔の人々の知恵と工夫に新たな発見を見いだす機会を提供している事業である。今年度は7月29日から31日までの3日間、埋蔵文化財センター及び美郷町飛沢尻遺跡を会場に、幼児から保護者まで延べ278名が参加して行われた。

() 内は参加者数

7月	午前 (9:30~11:30)	午後 (13:30~15:30)
29日(火)	勾玉づくり(53)、縄文文様染め(27)	土器づくり(32)、石器づくり等(10)
30日(水)	発掘調査体験(31)	発掘調査体験(28)
31日(木)	土器づくり(30)、石器づくり等(6)	勾玉づくり(34)、縄文文様染め(27)

今回は参加者の健康・安全管理面を重視し、各コースの実施回数を1回分少なくして(合計昨年度までの1日分)1コースあたりの配置職員を多くした。その関係で参加者の延人数は昨年度より52人減(18年度275人、19年度330人)となったが、実数は232人(18年度196人、19年度214人)と過去最高を記録した。また、仙北地域振興局にはこれまでと同様、体験材料の提供や広報などで協力いただいたが、各学校への案内が早かったので募集期間を長く取ることができ、ほとんどのコースが〆切日を待たずに定員に達した。

各コースの内容については概ね好評で、今回から本格的に実施することになった石器づくりに黒曜石を使用するなど、参加者の満足度を高めることができたと思う。発掘調査体験は現場の都合でセンターから離れた場所で行ったが、美郷町教育委員会のご協力により、移動・駐車・体験ともにスムーズにできた。体験者も昨年度を上回り、特に地元からの参加が増えたのは収穫であった。



発掘調査体験



勾玉づくり



縄文文様染め

④ ふるさと考古学セミナー

第1回 「払田柵跡—発掘調査35年目の新展開—」

日時：平成20年7月13日(日) 午後1時~3時

講師：高橋 学 会場：埋蔵文化財センター第1研修室 参加者：44名

本年度は昭和49年に払田柵跡調査事務所が開設され35年目にあたる。この間に実施された発掘調査は、長森丘陵部の政庁域、丘陵裾を巡る築地土塀や材木塀の外郭線区画施設、南門を含めた

外柵地区、近年では丘陵西側の鍛冶関連工房群などである。セミナーでは、昭和5年の最初の発掘調査とその後の保護の歴史から現在の発掘調査がどのような目的をもって行われているかを解説した。さらに、近年では払田柵跡の解明に欠かせない“雄勝城”及び関連遺跡の実態を探る調査も開始し、本年度は横手市教育委員会の協力を得て、雄物川町屋敷遺跡の調査を行い、速報的な成果報告もなされた。

研修室でのセミナー終了後には、本年度の発掘調査（第137次）で検出された鍛冶工房跡等の遺構群を参加者全員で見学した。

第2回 「マタギ文化の源流—森吉山麓の縄文社会—」

日時：平成20年8月31日（日） 午後1時～3時

講師：小林 克 会場：大館市中央公民館二階視聴覚ホール 参加者：50名

平成19年度に発掘調査の終了した森吉山ダム関係遺跡発掘調査に関係し、その調査成果を秋田県内陸北部縄文時代遺跡群の狩猟文化の側面でまとめセミナーを行った。会場となった大館市には、東北地方北部縄文時代前期の集落遺跡でも有数の規模の池内遺跡がある。池内遺跡の30基をこえる墓地から見つかった副葬品には石鏃や石槍が数多くある。また、谷の中から出土した動物骨には狩猟対象となったシカやノウサギなどの骨がある。こうした例から池内遺跡の生業における狩猟側面を説明した。また、森吉山ダム遺跡から出土した動物形土製品や狩猟文土器には、マタギの動物資源観に通じる表現が見られ、さらには狩猟と密接な関係をもつ性祭祀を示す石棒、土偶を安置した遺構があり、これらとマタギの習俗とを比較した。

第3回 「狩猟文化の源流—氷河期をのりこえた狩人達—」

日時：平成20年9月28日（日） 午後1時～3時

講師：吉川耕太郎 会場：秋田県立近代美術館講義室 参加者：21名

秋田県内には100箇所前後の旧石器時代遺跡がある。これら遺跡群は米代川、雄物川、子吉川の河川流域に分布し、狩猟を生業とする生活で残された遺跡群である。こうした県内の旧石器時代遺跡を理解するため、セミナーでは「第1幕 人類の進化史」「第2幕 旧石器時代の自然環境」「第3幕 旧石器時代の狩猟」の3部構成で、欧州旧石器時代の狩猟場面を描いた洞窟壁画や、近年、富士山麓で見つかった落とし穴群、そして、外国で復元された大型獣の骨格を用いた住居の写真などによって、背景となる狩猟文化を考えた。



大館市中央公民館にて（第2回）



出土品の説明（第3回）

⑤ 出張展示

出張展示は、埋蔵文化財センターが実施する企画展をより広く県民の方々に見学していただくために、他の公共機関等と連携して実施するものである。今年度は平成20年11月19日～12月26日の日程で、第1回企画展「久保田城下の武家のくらし」の内容を再構成して県生涯学習センター地下ホールに開催した。記帳式名簿をカウントした結果、約172名の見学者があった。



生涯学習センターでの展示

(5) 共催・機関連携等事業

① フレッシュあきたゼミ（発掘！あきた考古ゼミ）

生涯学習センターとの機関連携事業である。県の教育機関が相互にそれぞれの特徴を活かすことにより、活性化を図ることをめざした。合計4回の連続講座であったが、いずれも多数の参加者に恵まれた。なお、「発掘！あきた考古ゼミ」開催期間を含む38日間は、生涯学習センター地下ホールに出張展示「久保田城下の武家のくらし」を行った。

回	日時	講演テーマ	講師
第1回	10月28日（金） 10:00～11:30	狩猟文化の源流を探る －旧石器時代の狩人－	資料管理活用班 文化財主任 吉川耕太郎
第2回	12月5日（金） 10:00～11:30	マタギ文化の源流 －森吉山麓の縄文社会－	資料管理活用班 主任専門員 小林 克
第3回	12月12日（金） 10:00～11:30	古代城柵の実態に迫る －秋田城と払田柵の果たした役割とは－	払田柵跡調査事務所 主任学芸主事 高橋 学
第4回	12月19日（金） 10:00～11:30	発掘からわかる久保田城下町の成立と秋田藩士の生活	中央調査班 学芸主事 山村 剛

② 縄文土器に生ける山野草展

県立農業科学館と共催で10月24日から11月9日まで開催した。出展した土器は12点で、縄文時代前期・中期を中心にこの時期の土器の地域性が分かるよう、円筒式土器と大木式土器を選定して展示した。「土器と山野草がマッチしていてすてきです。」「土器がりっぱなので花の見映えがします。」等、見学者より好評を得た。



農業科学館展示会場

③ 県庁出前講座

今年度は全部で5件の要請があった。概略は次の通りである。

月 日	要 請 団 体	内 容	翻	講 師	会 場
6月11日	秋田市中心 高齢者大学	森吉山麓縄文社会の狩猟 儀礼 【参加者100名】	180	小林	秋田市中心公民館 サンパル
8月20日	秋田市川尻地区 高齢者学級	出土品から学ぶ秋田の歴 史 【参加者15名】	181	杉井	川尻地区コミュニ ティセンター
11月11日	秋田市泉地区 高齢者学級	出土品から学ぶ秋田の歴 史 【参加者10名】	181	杉井	泉地区コミュニテ ィセンター
12月18日	にかほ市仁賀保地区 自治会代表会	秋田の米作りのはじまり 【参加者40名】	181	児玉 築瀬	仁賀保公民館 むらすぎ荘
2月20日	秋田市保戸野地区 高齢者学級	出土品から学ぶ秋田の歴 史 【参加者25名】	181	杉井	保戸野地区コミュ ニティセンター

1件目は秋田市の中央公民館が主催している高齢者の社会参加を目的とした学習講座で、秋田市全体の高齢者を対象としており、2、3、5件目は秋田市の各地区ごとに分かれた講座である。4件目は、にかほ市仁賀保地区の自治会の代表を対象とする学習会である。いずれの講座でも参加者の聴講意欲は高く、真剣に傾聴し、質問も多数寄せられた。

(6) その他

① 所蔵資料・古代体験キット・ビデオの貸出実績

年 度	18年度	19年度	20年度
所蔵資料 貸出数	45件	38件	23件
キ ッ ト 貸 出 数	6件	8件	8件
ビ デ オ 貸 出 数	0件	1件	0件
火起こし 貸出数	2件	5件	3件

※所蔵資料貸出内訳

資 料 種 別	使用目的 (複数利用含む)		
	展示公開	書籍等掲載	研究他
遺 跡 出 土 品	10件	0件	2件
フィルム写真データ	0件	1件	0件
デジタル写真データ	0件	8件	1件
そ の 他	1件	1件	0件

② センターの開放と展示

見学者によりよく身近に埋蔵文化財を理解していただくために「いつでもギャラリートーク」を行っている。これは、平日の開館時間に来所された見学者には、要望に応じて専門職員がいつでも展示品の解説を行うというものである。さらに展示ケースを開けて実際の遺物に触れていただき、展示品を「見る」だけでなく、古の息吹をじかに「感じて」いただけるようにしている。ギャラリートークの所要時間は見学者の希望に合わせて15～30分程度である。今年度は企画展が年2回となり、展示解説の希望も多かった。

	開館時間	見学可能箇所
平日	8:30～17:00	特別展示室・第1収蔵庫(※)・整理収蔵庫(※)
土・日・祝日	9:00～16:00	特別展示室

(休館日：1月1日～3日、12月29日～31日)

※は職員の案内によって可能

(7) 講演・研究論文等

【研究論文・研究発表等】

(平成20年4月)

〈単著〉利部 修 『出羽の古代土器』 同成社

(平成20年5月)

〈論文〉小林 克 「森吉山麓縄紋社会の狩猟儀礼」『季刊東北学』第15号 柏書房

(平成20年7月)

〈発表〉柴田陽一郎 「土器から見る東北北部の文化交流－縄文時代から古代を中心に－」東北アイヌ文化研究会 気仙沼市松岩神社社務所

(平成20年8月)

〈論文〉吉川耕太郎 「東北日本における石材資源の獲得と消費」『考古学ジャーナル』No. 575 ニューサイエンス社

(平成20年9月)

〈発表〉山田祐子 宇田川浩一 「米代川河口域における祭祀の実態－能代市樋口遺跡を中心に－」法政大学国際日本学研究所サブ・プロジェクト③青森特別研究会 青森県観光物産館アスパム

〈事例報告〉藤田賢哉 「秋田県由利本荘市堤沢山遺跡」鑄造遺跡研究会2008 京都橘大学

〈発表〉加藤朋夏 「秋田県埋蔵文化財センターの温湿度環境」北海道・東北保存科学研究会第17回例会 秋田県埋蔵文化財センター中央調査班

〈発表〉菅野美香子 「秋田県北秋田市漆下遺跡出土の漆塗布土器の現状」北海道・東北保存科学研究会第17回例会 秋田県埋蔵文化財センター中央調査班

〈講演〉柴田陽一郎 「宮の前遺跡に光をあてる－湯沢市駒形町の地方豪族の居館跡－」稲川文化財保護協会 湯沢市稲川カルチャーセンター

〈話題提供〉吉川耕太郎 「秋田県域における縄文時代の黒曜石利用と縄文海進」第3回年代測定と日本文化研究シンポジウム 株式会社加速器分析研究所

〈論文〉利部 修 「虚空蔵大台滝遺跡の呪術・祭祀・信仰—平安時代後半と中世後葉の心象風景—」『生産の考古学Ⅱ』 倉田芳郎先生追悼論文集編集委員会 同成社

(平成20年10月)

〈発表〉吉川耕太郎 「秋田県域における先史人類の石材資源開発行動」東北史学会・秋大史学会合同大会 秋田大学

〈発表〉高橋 学 「横手市町屋敷遺跡で検出された古代倉庫跡の意味するところ」東北史学会・秋大史学会合同大会 秋田大学

〈研究動向〉吉川耕太郎 「東北地方の動向」『石器文化研究』第14号 石器文化研究会

〈コメント〉吉川耕太郎 「秋田県域における黒曜石資源の利用」『石器文化研究』第14号 石器文化研究会

(平成20年11月)

〈講演〉利部 修 「虚空蔵大台滝遺跡について」平成20年度秋田考古学協会研究会 秋田市立中央図書館明德館

〈事例報告〉宇田川浩一 「地藏岱遺跡の概要」『清原氏から藤原氏へ』平成20年度秋田考古学協会研究会資料集 秋田市立中央図書館明德館

〈事例報告〉山村 剛
菊池 晋 「秋田・古川堀反町遺跡」『木簡研究』30

〈事例報告〉藤田賢哉 「秋田・岩倉館跡」『木簡研究』30

〈事例報告〉高橋 学 「秋田・久保田城跡（中土橋地区）」『木簡研究』30

〈資料紹介〉吉川耕太郎 「海産物としての黒曜石、もしくは遡上する石匙」『秋田考古学』第52号 秋田考古学協会

(平成20年12月)

〈発表〉高橋 学 「払田柵はなぜ、この地に造られたのか」『謎の遺跡「払田柵」から探る秋田の可能性』 秋田大学教育文化学部3号館

(平成21年2月)

〈事例報告〉高橋 学
藤田賢哉 「払田柵跡 平成20年度の調査概報」『第35回古代城柵官衙遺跡検討会資料集』 ホテル東日本（盛岡市）

(平成21年3月)

〈事例報告〉高橋 学 「辺境における条里制の実態—秋田県払田柵跡周辺の事例を中心に—」『第25回条里制・古代都市研究会』奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂

【講座等】

(平成20年5月)

高橋 学 「生涯学習資料としての“払田柵跡”—払田柵はなぜ、ここに造られたのか—」『平成20年度大仙仙北地区生涯学習奨励員連絡協議会総会』 大仙市大曲地域職業訓練センター

杉井克之 「大仙市の考古学事情－神岡地区の発掘について－」平成20年度大曲文化財保護協会
総会 大仙市大曲交流センター

(平成20年6月)

高橋 学 「古代出羽国における律令制の実態と生業」『柵の案内人「ほたるの会」平成20年度
学習会』 秋田県埋蔵文化財センター

(平成20年10月)

児玉 準 「秋田の米作りのはじまり」美の国カレッジ あきた学専門講座あきた文化学Ⅱ 秋
田県生涯学習センター

谷地 薫 「中国新石器時代遺跡の合同発掘調査」創立110周年記念事業「先輩たちによる課外
授業」 大館市大館鳳鳴高等学校

高橋 学 「古代城柵 払田柵跡－払田柵が担っていた役割とは何か－」秋田市立赤れんが郷土
館研修室

加藤朋夏 「由利本荘市智者鶴遺跡」平成20年度大湯ストーンサークル館講座「縄文に学ぶ」
大湯ストーンサークル館

7 運営協議会

第1回

日時：平成20年7月3日（木） 午後1時30分～3時40分

委員：岩見委員長、杉山副委員長、川越委員、鈴木委員、藪田委員、高橋委員、工藤委員、鎌田委員
事務局：佐藤所長、佐田副所長、櫻田副所長、石川総務班長、利部調査班長、児玉中央調査班長、
小林資料管理活用班長、柴副主幹

今年度の第1回の運営協議会を上記の日時、参加者で中央調査班を会場として開催した。まず初めに、佐藤所長が今年度のセンター機構改革の概要を説明した後、中央調査班での活用スペースを視察した。その後、議題として、1)平成20年度発掘調査について と、2)平成20年度資料管理活用班事業計画について を提示し、各委員から主に活用事業について以下のような提言をいただいた。

- ・事業内容を宣伝するポスターを大判のものにすれば、アピールする度合いも強いのではないかな？
- ・文化財巡りにイベント見学、例えば大仙市の曲家見学に併せて餅つきイベント見学などを組み合わせられれば、事業自体が親しみをもてるものになる。
- ・埋蔵文化財センターで行う講演会やセミナーなどは広い会場で行うべきである。
- ・ホームページでの広報に工夫が欲しい。各時代の遺跡や遺物が県内のどの展示館で見ることができるか、ホームページ上の検索機能を利用して迅速に検索できるようにしたら良い。
- ・出土遺物を美学的な観点で展示するというのも一考すべきではないか。美術的な価値が認められるものならば、近代美術館で展示するなど十分考えられることではないか。
- ・利用する立場からは単独のものよりも複数のイベントを組み合わせることができれば、出かける動機も強くなると思う。これに関わってイベント開催の時期にも出やすい時期と難しい時期があるので、そうしたタイミングの点でも工夫が必要ではないか。
- ・小中学生を対象とした「埋文クラブ」のようなものを設立できないか？また、こうした組織に国庫

補助が入れられるようになればありがたい。

- ・埋蔵文化財に関する公開講演会を毎年、県内2～3か所で開催できるようになれば良い。
- ・埋蔵文化財に関する県民塾のようなものを開講し、修了者には文化財ないし埋文マイスターのような登録制度を設けて各地の広報普及活動にサポーターとして関わってもらうようにしたらよい。
- ・教員の研修会などで埋蔵文化財センターの事業を宣伝するようなことを行ったら良い。
- ・中央調査班の埋蔵文化財活用スペースを、玄関に大きな看板を設置するなどして広報したら良い。
- ・出土品の貸し出しについては十分な安全を考えて行ったほうが良い。場合によっては本物ではなく、複製品を貸し出すなどの対応が考えられる。
- ・小中学校での埋蔵文化財活用については、PTAの力を借りるのが良い。また、地域の公民館活動に親子教室のようなかたちでその活用を組み込むような方策も考えたら良い。
- ・「遺跡巡り」はバスの台数を増やして、希望に十分答えられるようにしたら良い。

第2回

日時：平成21年2月26日（木） 午後1時30分～3時50分

委員：岩見委員長、杉山副委員長、川越委員、鈴木委員、藪田委員、高橋委員、工藤委員、鎌田委員
事務局：佐藤所長、佐田副所長、櫻田副所長、石川総務班長、利部調査班長、児玉中央調査班長、
小林資料管理活用班長、小徳学芸主事

第2回の運営協議会を上記の日時、参加者で当センターを会場として開催した。初めに、佐藤所長より協議題についての説明があり、次いで埋蔵文化財センター事業報告として、1)平成20年度発掘調査成果について、2)平成20年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会について、3)平成20年度資料管理活用班事業報告について各担当が説明を行った。その後特別展示室で第2回企画展を見学いただき、後半は協議題「高校生にも考古学への興味を更に奮起させ、大学の専門学部や企業への進路志望に導くための助成となるセンターでの取り組みについて」に対し、各委員から以下のような提言をいただいた。

- ・進学校は受験勉強があり、特に3年生は余裕がないので、1、2年生を対象とした方がよい。
- ・学校や教員は忙しいので、興味のある高校生が独自に活動して成果を発表できるような機会や場があればよい。
- ・夏休み中の発掘体験など、実際的な活動に参加できれば関心が高まる。
- ・考古学に興味をもってもらうためには遺跡などを扱った写真展など、いろいろな方面からのアプローチが必要である。
- ・生徒が自分で考古学に関する情報を得るのは難しいので、センターが情報発信したり、考古学に興味のある先生と連携してクラブ的なものをつくってはどうか。
- ・センターでは例年新しい企画を行っているので、高校生を取り込めるアイデアを出してほしい。例えば分野を広げ、農業的な視点で農業高校との稲作関係の研究などができそうだ。
- ・縄文土器に花を生けるような試みを、高校の華道部などに呼びかけてみる手もある。
- ・考古学に興味のある教員がいれば、生徒も集まる。セカンドスクールなどでセンターを利用している学校にアンケートを行い、意識調査をしてみてもいい。

- ・ボランティア活動や職場体験で発掘現場を見る機会を与えたり、保護者も含めて発掘に参加できる方法を考えてはどうか。
- ・発掘調査に参加した時、昼食くらいは出るようだとい。そうすると予算が必要だが、現在の緊急雇用対策事業の中で条件をクリアすれば可能な部分もあるので、検討してほしい。
- ・市町村が遺跡見学会や資料展示を行う時、地元小中学校には案内があるが、高校にも情報提供がほしい。文化財保護担当者会議等で呼びかけてもらいたい。
- ・高校の文化祭で考古資料の展示をしてもらったことがある。そういう機会があれば関心も高まるのではないか。
- ・税務署では納税に関するポスターや習字、標語のコンクールがあり、学校に参加依頼が来る。また、PRを兼ねた出前授業も行っており、そういう方法も考えられる。
- ・発掘模擬体験などの試みをマスコミに取材を依頼し、新聞等で取り上げてもらえばPRにつながると思う。

〈平成20年度 委嘱委員〉

岩見 誠夫：元河辺町立河辺中学校長	毛利 博信：県教育庁南教育事務所仙北出張所長
杉山真紀子：前大仙市立豊岡小学校長	川越 和子：大仙市仙北総合支所長
高橋 孝弘：県仙北地域振興局地域企画課長	鈴木 タキ：元県立由利高等学校長
工藤 侃：公募委員・大館市	藪田 智輝：公募委員・秋田市
鎌田奈緒子：公募委員・秋田市	

V 平成20年度研修事業

1 教職10年経験者研修

①期 間：平成20年7月23・24日、29～30日

研修者：佐藤千暁（羽後町立田代小学校）、熊谷留美子（大仙市立太田中学校）

②期 間：平成20年7月24・25日、29～30日

研修者：吉尾 香（秋田県立勝平養護学校）、石川健志（男鹿市立男鹿北中学校）

③期 間：平成20年8月1日、4～7日

研修者：進藤 紀（秋田県立本荘高等学校）

2 新任職員研修会

期 間：平成20年4月9・10日

研修者：高橋和成（秋田県埋蔵文化財センター）

3 職員技術研修会

期 間：平成20年8月22日

研修者：秋田県埋蔵文化財センター職員

熊谷直栄（大仙市教育委員会）、五十嵐祐介（男鹿市教育委員会）

4 教員長期社会体験研修

南調査班研修者：栗田 康（横手市立増田小学校）

中央調査班研修者：杉原峰子（大潟村立大潟小学校）

当センターで行った研修は以上のとおりである。

教職10年経験者研修は、研修者の要望を聞きながらセンターの業務と関連して実施した。発掘調査や遺物整理・教育普及活動を通じて歴史見識を深め、今後の指導に活用してもらう目的で行った。発掘調査は、秋田市の平右衛門田尻遺跡と大仙市沖田Ⅱ遺跡で実施し、土中から出土する遺物や当時の生活の痕跡を発見する実体験を経験した。遺物整理では、遺物の洗浄・復元作業等の作業を通じて、見つかった遺物が展示・活用されるまでの作業過程を学んだ。教育普及活動では、夏休みを利用した勾玉づくり・文様染め・土器づくり等の準備や当日の運営に携わった。

新任研修では、センターの役割を理解した上で、主に発掘調査に関わる書類等の確認や調査方法の実際について研修した。今回、センター以外の参加はなかった。

職員技術研修会は、センター職員の技術向上を目的に、外部にも参加を呼びかけたものである。砂地に立地した平右衛門田尻遺跡で、砂地特有の調査方法や土層の堆積状態を検討した。また周辺を踏査して、遺跡を取り巻く環境を実地調査し意見交換を行った。

教員長期社会体験研修では、調査・整理と資料管理・活用に関わる半年間の内容を立案し実施した。調査・整理では、発掘の体験や報告書作成作業を通じて郷土の歴史理解を深めた。資料管理・活用では、発掘資料を活用して来訪者の歴史教育を促進し、教育普及を図るための様々な体験を実施した。

VI 職員名簿

職 名	氏 名
所 長	佐 藤 了
副 所 長	佐 田 茂
副 所 長	櫻 田 隆

総務班

主任専門員（兼）班長	石 川 清 二
主 査	千 田 喜 博
主 事	高 村 知 恵 子
非常勤職員	高 橋 明 男

調査班

主任専門員（兼）班長	利 部 修
副 主 幹	柴 田 陽 一 郎
副 主 幹	栗 澤 光 男
（兼）主任学芸主事	高 橋 学
学芸主事	藤 田 賢 哉
文化財主任	宇 田 川 浩 一
文化財主任	加 藤 朋 夏
文化財主事	菅 野 美 香 子
文化財主事	山 田 祐 子
文化財主事	高 橋 和 成
臨時的任用職員（調査・研究員）	深 沢 恵 里 子
臨時的任用職員（調査・研究員）	巴 亜 子
臨時的任用職員（調査・研究員）	佐 々 木 公 法
臨時的任用職員（調査・研究員）	菅 原 博 志

資料管理活用班

主任専門員（兼）班長	小 林 克
学芸主事	小 徳 晶
学芸主事	杉 井 克 之
文化財主任	吉 川 耕 太 郎
非常勤職員	遠 藤 博 通

中央調査班

主任専門員（兼）班長	児 玉 準
主任専門員（総務）	時 田 慎 一
副 主 幹	榮 一 郎
主任学芸主事	谷 地 薫
学芸主事	山 田 徳 道
学芸主事	築 瀬 圭 二
学芸主事	磯 村 亨
学芸主事	袴 田 道 郎
学芸主事	山 村 剛
文化財主任	加 藤 竜
臨時的任用職員（調査・研究員）	長 谷 川 幹 子
臨時的任用職員（調査・研究員）	相 馬 美 紗 子
臨時的任用職員（調査・研究員）	藤 本 玲 子

弘田柵跡調査事務所

（兼）所長	佐 藤 了
（兼）副主幹（兼）総務班長	石 川 清 二
（兼）主査	千 田 喜 博
（兼）主事	高 村 知 恵 子
主任学芸主事（兼）調査班長	高 橋 学
（兼）学芸主事	藤 田 賢 哉

秋田県埋蔵文化財センター年報27

(平成20年度)

発 行 平成21年3月
秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802 大仙市払田字牛嶋20番地
電 話 (0187) 69-3331
F A X (0187) 69-3330
[URL] [http://www.pref.akita.lg.jp/
gakusyu/maibun_hp/index2.htm](http://www.pref.akita.lg.jp/gakusyu/maibun_hp/index2.htm)

印 刷 精巧堂印刷所

